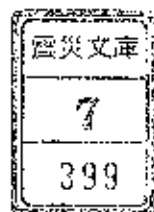


阪神・淡路大震災活動記録

つなぐ

宇治市社会福祉協議会
宇治ボランティア活動センター
阪神大震

神戸大学人文学部



02100025879



阪神大震災支援活動の記録集の発刊にあたって

宇治市社会福祉協議会

会長 笠嶋 教瑞

あの阪神大震災から早半年が過ぎました。被災地の復興はまだまだ緒に就いたばかりで長く険しい復興の道が始まっています。現地に行き、目の当たりにした被害状況は忘れられるものではありません。多くの人々が力を寄せあうことによって復興が一日も早くもたらされる事を祈ります。

震災直後から、宇治市のボランティアの方々の力を集めて阪神大震災への支援活動が開始されました。市社協においても役職員はもちろん各学区福祉委員会やボランティアの一早い救援支援活動への取組は予想以上の大きな盛り上がりを見せました。本会が取り扱った義援金には温かい心が寄せられかかってない大きな金額となった事や、宇治ボランティア活動センターの中に阪神大震災支援センターが開設され、支援活動をボランティアの大きなつながりの輪を形成しながら支援活動が進められたことや、多くの学区福祉委員会が被災地へ炊き出し活動に出向き現地被災者との温かい交流のひとつときを持つという数多くの教訓的な経験が、支援活動を通して宇治市に大きな財産として持ち帰ってきていただけたことなど今後本市社協活動の推進にとって貴重な体験を積み重ねる事ができました。

この活動記録集は震災後の短期間で多くの市民の「なんとかしたい、なんとか力になりたい」という思いが具体的な活動や形となって結実した何物にも代えがたい貴重な記録となっています。

市社協は今地域に学区福祉委員会を形成し、「小地域福祉ネットワーク活動」を進めています。震災の被害は多くの高齢者や障害者、子供達に対しより過酷なものとして直撃した事は多くのデータから明らかとなっています。この「小地域福祉ネットワーク活動」は高齢者や障害を持っておられる方々や子供達を地域のネットワークにより支えていこうとする取組です。また、復興に対しても地域段階での市民の日常的な繋がりに基づく相互の協力支援体制が何よりも有効であると思えます。

今後も地域での活動の深まりを進めていきたいと考えています。

安全で快適なまちづくりをめざして

宇治市長 池 本 正 夫

本年1月17日に発生した阪神淡路大震災は、便利で快適な大都市の生活から一転して、5千数百人にのぼる貴い人命をはじめ多くの財産が失われ、数十万人もの人が避難所で飢えと寒さをしのぐという未曾有の大惨事となりました。被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

同時に、この間、市民や各種団体から8千万円を超える義援金をお寄せいただき、また、多くの方々が宇治市社会福祉協議会・阪神大震災支援センターを通じまして、ボランティア活動を展開していただいておりますことに対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

今回の大震災では、ボランティアの存在が大きくクローズアップされ『ボランティア元年』とよばれるほどの盛り上がりを見せ、住民同志の助け合いや自治体職員の献身的活動、企業活動の粋をこえた救済活動など新しい動きが生まれました。

これらのボランティア活動が人々の日常生活に根づいたものとするため、活動に関する情報提供・相談、研修、活動プログラムの開拓、関係機関のネットワークづくりなど、活動推進・支援の拠点であるボランティアセンターの整備や機能強化のために、宇治市といたしましてもより積極的に応援してまいりたいと考えております。

また、今回の震災により明らかになりました初動体制や救助・避難の体制、通信、輸送・道路など、様々な問題点を貴重な教訓として今後に活かして行かなければと肝に命じているところでもございます。このため、地域防災計画の見直しと防災対策の指針となる緊急対策マニュアルの作成をめざして、宇治市防災会議に地震対策委員会を設け、検討を開始したところであります。

私は、安全で快適なまちづくりを最重要課題と位置付けまして、災害に備え、地域防災体制の確立に努めるとともに、万一災害が発生した場合には、防災関係機関を中心に被害を最小限に食い止め、迅速な復旧体制を整えてまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましても、今後も一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宇治市社会福祉協議会における

阪神淡路大震災の救援支援活動の経過について

- 1/17 早朝午前5時54分兵庫県南部地域で震度7
- 1/19 ・兵庫県南部地震たすけあい募金開始
・理事会で阪神大震災支援センターを活動センター内に設置することを決定。
- 1/21 ・理事、ボランティア、職員を中心に西宮市社会福祉協議会の救援
-25 活動に参加開始。
- 1/26 ・高齢者ボランティア教室特別講演会会場で、永六輔氏が募金活動
に協力のよびかけ、会場内で316,813円の募金
- 1/31 ・評議員会で支援活動の拡大を決定。
- 2/ 2 ・阪神大震災支援センター開設の準備開始。2月10日にボラン
ティア説明会開催決定。直通電話☎0774-22-4445を設置。
- 2/ 5 神戸市市民交流センター物資の仕分け調査訪問。
- 2/ 6 ・阪神大震災支援センター開設にあたり、現地訪問、調査。被災地
の方に同行協力をしていただく。
- 2/ 8 ・京都府社会福祉協議会現地本部芦屋市に開設。
- 2/2-15 ・芦屋市・宝塚市社協支援に職員派遣。
- 2/10 ・阪神大震災に関するボランティア説明会開催。午前の部75名、
夜間の部55名の参加。阪神大震災支援センター活動開始。
大震災に関する情報板の設置開始。宇治市、市外よりボラン
ティア活動希望者、要請団体相談受付開始。
- 2/16 ・芦屋南高校物資の仕分けボランティア派遣開始。調査訪問。
- 2/18 炊き出し団体コーディネーター活動開始（芦屋市社協と連携）
- 2/28 京都新聞福祉の窓にボランティア募集掲載。市内問わず、市外
の方から希望者が相次ぐ。
- 2/23 芦屋市内の避難所での炊き出し活動開始

- 3/ 1 芦屋市「なかよしクラブハウス」共同作業所訪問。
- 3/ 7 阪神大震災支援センター情報紙“つなぐ”発行
- 3/13 芦屋市「なかよしクラブハウス」共同作業所訪問。
- 3/16 ・阪神大震災ハープチャリティーコンサート（献辞 池田千鶴子氏）
・活動体験報告会
- 3/17 阪神大震災ハープ支援コンサート（芦屋市・精道小学校）
- 3/18 阪神大震災ハープ支援コンサート（芦屋市・西山幼稚園）
「震災復興支援・京都NPO連絡会」へ参加
- 3/26-27 「なかよしクラブハウス」一泊リフレッシュ旅行・交流会
- 4/30 神戸市内要請団体现地調査訪問。
- 5/ 3 「なかよしクラブハウス」との交流が京都新聞一面に掲載。
- 5/ 4 がんばろう神戸子供支援フェスティバル参加
- 5/14 神戸わんぱく祭り お茶席企画参加
- 5/15 阪神大震災支援センター受付終了
- 5/16 阪神・淡路大震災ボランティア活動体験報告集募集
- 5/27 「なかよしクラブハウス」復興支援マリンパコンサート
- 7/21 平成7年度宇治市社会福祉大会にて
「阪神淡路大震災救援活動を通して学んだもの」活動記録集配布

ありがとうございました

●「兵庫県南部地震災害NHKたすけあい」義援金 7月6日現在

367件 20,081,185円

宇治ボランティア活動センター・阪神大震災支援センター

開設期間 2月10日～5月15日(90日間)

宇治ボランティア活動センター内に設置し仮設電話で活動開始。
 4名の事務局ボランティアと職員で対応。
 90日間のうち対応日数は50日間。ボランティア要請件数53件。
 ボランティア登録者211名(内、電話での登録者57名)
 活動者数のべ960名。対応件数は約1600件。その他相談37件。

活動内容

<p>2,3月14日 毎日午後5時～7時 ボランティアの受付を兼ねる。</p>			
●活動者数●			
・事務局ボランティアコーディネーター	124名	(調査を含む)	
・被災地での活動	536名		
・支援センター企画運営	99名		
・支援センター企画参加	206名		
			合計 965名
●ボランティア登録者●			
男性	53名	(内、電話での登録者16名)	
女性	158名	(" 41名)	
			合計 211名
●対応日数●			
2月	13日間	3月	28日間
4月	7日間	5月	2日間
			合計 50日間

●支援センター企画事業●

- | | | |
|------------------|----------|----------------------------|
| 1) ボランティア説明会 | 【通算Y12名】 | 130名(2/10 午前・夜間) |
| 2) チャリティー・ハーブ演奏会 | 【通算Y10名】 | 60名(3/16 宇治森林館学習センター) |
| 3) ハーブによる支援演奏会 | 【通算Y 3名】 | 50名(3/17 熊鷹小学校、3/18 西山幼稚園) |
| 4) お茶席 | 【通算Y34名】 | 70名(3/18 西山幼稚園、5/14神戸かんぱく) |
| 5) 活動報告会 | 【通算Y 3名】 | 16名(3/18 朝寝会館) |
- ↑ 300人分の茶たんじょうもつお茶席。

● 情報広報板 ●

2月10日～5月15日(90日間)

宇治

「支援センター」滑り出し順調

ボランティアと被災地を結んで

阪神大震災の被災者を支援する機会窓口として、宇治市社会福祉協議会と市ボランティア活動センターが、同市社会福祉会館に開設した「支援センター」が活動を開始して、16日で1週間。被災地とボランティアらを結び、スムーズな救援活動ができる調整機関として順調な滑り出しをみせている。今後、被災地では急ぎの長い支援活動が求められる情勢だけに、期待が高まりそうだ。



被災地が求める具体的な内容を紹介する掲示板
(宇治市社会福祉会館)

市社協「長期対策を検討」

宇治市「支援センター」は、阪神大震災の被災者を支援する機会窓口として、宇治市社会福祉協議会と市ボランティア活動センターが、同市社会福祉会館に開設した「支援センター」が活動を開始して、16日で1週間。被災地とボランティアらを結び、スムーズな救援活動ができる調整機関として順調な滑り出しをみせている。今後、被災地では急ぎの長い支援活動が求められる情勢だけに、期待が高まりそうだ。

阪神大震災の被災者を支援する機会窓口として、宇治市社会福祉協議会と市ボランティア活動センターが、同市社会福祉会館に開設した「支援センター」が活動を開始して、16日で1週間。被災地とボランティアらを結び、スムーズな救援活動ができる調整機関として順調な滑り出しをみせている。今後、被災地では急ぎの長い支援活動が求められる情勢だけに、期待が高まりそうだ。

1週間で40人を派遣

十日前に「支援センター」が開設された。ボランティア活動センターを滑り出し、昨日から、活動開始センターの準備作業がスタートした。トワク、順調な滑り出しだ。

ぜひみにきてください！ 情報や写真満載！

宇治福祉会館1Fロビーに設置しています。

● 被災地での活動内容 ●

- 物資の仕分け…(神戸市、芦屋市) 146名、 運転…1名、 引っ越し…2名
- 炊き出し…296名、 物品提供…10名
- 避難所での活動(入浴、話し相手、玩具くばり、遊び相手)…48名
- 祭りの手伝い…33名

- 6) “なかよしクラブハウス”-泊旅行【運営V748】 20名(3/26-27 福見会館)
- 7) 炊き出し活動 11日間(主に芦屋市春日集會場で夕食分)
- 8) 支援センターニュース『つなぐ』を発行
- 9) 『活動記録及び活動体験報告書』の作成
- 10) 『なかよしクラブハウス』自主製品の販売
- 11) 『震災復興支援・京都NPO連絡会』へ参加

1995年(平成7年)5月16日(火曜日)

第 1 頁

震災支援記発行へ

ボランティアから体験談

「ボランティアから体験談」は、震災支援センターの活動記録として、ボランティアの活動内容や体験談を掲載しています。この冊子は、震災支援センターの活動記録として、ボランティアの活動内容や体験談を掲載しています。

「ボランティアから体験談」は、震災支援センターの活動記録として、ボランティアの活動内容や体験談を掲載しています。この冊子は、震災支援センターの活動記録として、ボランティアの活動内容や体験談を掲載しています。



震災支援センター

支援センター ボランティアの手びき

～あせらずに つなごう “人・もの・こころ” 今できることから～

I 活動内容

- ①ボランティアの活動記録(情報をおよせください)
- ②ボランティア活動情報ボード(会館1Fに設置)にてボランティア活動を掲載
- ③ボランティア活動のコーディネート
- ④各々のボランティアの相談、対応

II 活動時間

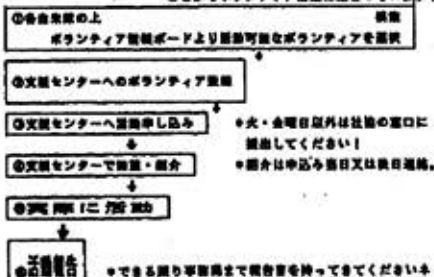
会館 火・金曜日 午前10時～午後8時
(支援センターの事務局が管理しています)
この日以外は社務が窓口になります

III 連絡先

宇治市社会福祉会館3F
宇治市社会福祉委員会
宇治ボランティア活動センター内 阪神大震災支援センター
☎0774-24-4445 (会館)
☎0774-22-5650 (社務)
☎0774-22-5654

IV 「ボランティアをしたい」方へ参加の方法

ここからボランティア活動は始まります！



V 納税について

- ①ボランティア納税(300円・95/3月末まで有効)
活動が決まった方については、社員会館で加入します。
- ②阪神大震災支援センター納税(納税額については別紙)
希望の方は申込みください。手続きは前日までには行います。

VI 活動上の注意事項

- ①費用をいただいても、現地の状況によって、費用定めに納税が多額になることもあります。
- ②ボランティア活動の変更があるからといって、社員会館の上層部の依頼に努めてください。
- ③活動上、困ったこと・相談したいことがあれば気軽に相談ください。

VII 現地での活動上の注意事項

- ①自分の行動に責任をもってください。
・体調を悪くして活動に参加してください。
- ・活動にあたっての、交通費・食費・飲み水は各自負担です。持ち物として、軍手・帽子・傘・タオルなどがあれば便利です。
- ②現地の状況によって活動内容が変更することがあります。現地では、現地の方の指示に従ってください。

④ボランティアへ月見とスペース - チラシを渡ります -

活動の際に、今私たちが活動している中でのお気持ちや思いが伝わる場合があります。そのために活動中感じたことなどを紙に書いたり、個人の手紙を共有できる場が大切だと感じています。自分の気持ちを伝える場としてご利用ください。また、困っても良い場所になります。次に活動される方に紙を渡してください！



阪神・淡路大震災炊き出し支援活動まとめ



●炊き出し団体コーディネート活動●

10団体/11会場/10日間/協力ボランティア296名/大なべの貸し出し

月 日	炊き出し実施団体名	実施場所	
2/23	宇治市社会福祉協議会	春日公園	社協風いか汁、イカの下足煮 大豆の煮豆、ホウレン草のおひたし
2/25	西小倉地区社会福祉協議会	春日公園	しめじ炊き込み御飯、おた汁、紅茶 みたらし団子、練菓子、コーヒー
3/ 3	三愛戸学区福祉委員会	春日公園	粕汁、青菜のおひたし、甘酒、抹茶、 茶だんご、ひなあられ
3/12	伊勢田学区福祉委員会	打出浜小学校	筑前煮、野菜サラダ、御飯、味噌汁 ゴマあえ、お茶
3/13	横島学区福祉委員会	春日公園	焼きそば、コンソメスープ
3/15	大久保学区福祉委員会	春日公園	八宝菜、千切り大根いため
3/18	宇治市社会福祉協議会 国際ソロブチミスト宇治	西山幼稚園	紅茶、クッキー、コーヒー お茶席
3/23	宇治市社会福祉協議会	宮川小学校	肉じゃが、煮びたし、煮豆
3/25	笠取学区福祉委員会	打出浜小学校	けんちん汁、おはぎ
3/26	西小倉地区社会福祉協議会	芦屋市体育館	山菜炊き込み御飯、クリームシチュー ミニオムレツ、みたらし団子、練菓子 コーヒー、紅茶
3/26	北横島学区福祉委員会	打出浜小学校	焼きそば、ニラ玉スープ





炊き出し活動に多くの寄贈がありました

ありがとうございました



宇治市社会福祉協議会

(株)京印青果友の会、宇治川餅

(社)京都府茶業会隣所

(株)西山製麺、寺安商店、東郷さい

西小倉地区社会福祉協議会

山田仁志酒店、西小倉地区社協福祉委員

西小倉地区連合寄老会

(株)辻鶏卵、(株)京印青果友の会

三室戸学区福祉委員会

中村鮮魚店、石津商店、岩淵さん、菟道喜老会

村上さん、尾崎さん、利招園、月桂冠、谷岡さん

関口さん、小林さん、阪倉さん、安岡さん

伊勢田学区福祉委員会

魚常商店、角与商店、北川米屋、西村番茶屋本店

双見自動車、能勢園、北川半兵衛商店

横島学区福祉委員会

パパヤソース(株)

大久保学区福祉委員会

(株)京印青果友の会

笠取学区福祉委員会

(有)京環運輸



●協力ボランティア 296名●

・宇治市社会福祉協議会	98名	・大久保学区福祉委員会	19名
・西小倉地区社会福祉協議会	62名	・笠取学区福祉委員会	18名
・三室戸学区福祉委員会	27名	・北横島学区福祉委員会	25名
・伊勢田学区福祉委員会	24名	・横島学区福祉委員会	23名

阪神大震災支援センター、て、どんなコトしてたんが?

1

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

大震災起る。
TVに映る悲惨な光景..
私達にも何か力になれる事
があるんじゃないかな?o
何かを始めるなかな?

2

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

震災ボランティアの説明会開く。
朝夜2回の説明会にたくさんの方が参加
下り、支援センターが忙しくていかなあかんや..
とセンターのスタッフ、気持ち悪いしめる。

- ☐ ネット協、大歓迎し行なう。(芦屋、春の集会所)
メニュー: ネット協風イカ汁
大豆の煮物
イカの下足煮
| 五うれん軍のおじいちゃん
- ☐ 宇治市に引越してこられた方のお手伝い
ボランティア、若い男お生2人。お礼のラ。

2/16~5日始めまで、1日1日毎日、芦屋南高校へ
物資の仕分けボランティアが活躍。
芦屋南高校からの要望にそって、毎日2~4、5人
のボランティアさんを探す。何度も何度もお電話を
さしあげて、おめえせんでした。でもみなさんの電話口
からの「いっせお助けさまです」という声までお聞きした。

センタースタッフ
芦屋へ。
たかはしクラブハウス
との出会い。

3

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

なかにしクラブハウスへ油旅行
ボランティアさんの作った 鍋料理に
夜の21とき盛り上がりましたね。
27日は 宇治市泊りしてバーベキューパーティ。
歌の対してとても楽しかったですね!

- ♪ 16日 ハーブコンサート 宇治市
- ♪ 17日 ハーブコンサート 津道小学校
- ♪ 18日 ハーブコンサート 西山幼稚園

すばらしいハーブの音色よに 感動された方の
声も一挙やすらしたのて..と笑いませ。
西山幼稚園では 震災以降 鳴かなくなったコトリ
が コケッココ〜と鳴き出したと..
当日お疲れ、クタクタ作り、ハーブコンサートに来て下さった
みなさん ありがとうございました。

5

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

神戸カマキリ
宇治市、お抹茶と茶飯ごころと作り
おまつりに参加しました。
南郷町の楽しいお祭でした。

ちびこみこみ95
子供たちのお祭り。
おまつりに参加しました。
おまつりに、ボランティアの
数におどろきました。

なかにしクラブ
ハウス
3日に 交流を深めた、なかにしクラブ
ハウスのみなさん、お返しに
マリカの快脚でリズムに合わせてみな
さんの心もうきうきした。
みなさんの御協力
本当にありがとうございました。

活動日誌

NO.1

草屋南高校編

氏名	木村美紀	
行先	芦屋南高校	午後開始 8:00 退場時間 9:50
開催日	7年 2月 22日(金) 8時 5分 - 午後 20分	
活動内容	救急物資の仕分け作業 (薬のラベルと林檎の箱に ラベルを貼る作業)	
注意事項	引継	
その他	交通安全を詳しく書いてください 送迎の有無 → 不詳 → JR 降車	



ボランティア求遺のお願いが
前日... 夜遅くにしてしまった
ことがありました。

事務局は、日程の違うボランティアを
求めて名簿登録されている人
1人1人に電話をしてみました。
なかなか調整がつかず、
この様な失礼なこともしばしば...
ありました。

ごめんなさ...

活動記録カード

活動記録
カード記入

記入日 7年 2月 26日

氏名	野上悦子	
行先	草屋南高校	午後開始 8:25 退場時間 10:00
開催日	7年 2月 26日(日) 10時 00分 - 16時 00分	
活動内容	合同教室用のPM11:00から行小の各教室に 通い、通廊の整備をして後PM11:00から奉仕者の 入室開始	
注意事項	引継	
その他	交通安全を詳しく書いてください	



事前に渡さぬいてあげた
腕章が渡さぬいてい
なかった。という事が
ありました。

腕章は、ボランティアの人に
福祉会館まで取りに来てもらったり、
事務局員が、朝、集合時間に
京都駅へ行き、直接手渡したり、
ボランティアさん同志引き継いで
もらったりしていました。

でも、しっかり連絡できなくて
1,2度、この様な出来事があり
ました。

ごめんなさ...

活動日誌

NO.2

活動記録カード

できる限り
書いて出してね

記入日 1998年 3月 27日

氏名	宮本 佳代子	
行先	兵庫東立戸原南高校	上校 学舎前 8:41 開校前 10:10頃
活動日	1998年 3月 25日(木) 10時 30分 ~ 16時 30分	
活動内容	朝の6時半 車、水、早飯、ラーメン、毛布、おむつをトラックから運ぶ おむつをトラックに積む 帽子も履物も箱に入れます	
感想	みんなも夢中にとりず 午前中は朝まで運ば入庫、おむつ 時間としておまじいおまじい。おむつ にこころいれおむつをこの日は運んで いたおむつに書いておむつ。おむつを運ぶの おむつを運ぶと思いました。(おむつ おむつ)	引継 交通事情を詳しく書いてください。 車やの多量におむつ、おむつは おむつです。

阪神大震災支援センター



集合時間に 事務局員が
遅刻してしまいました。

御迷惑をおかけした皆様に
ごめんなさい



事務局の把握していた情報と
被災地でのボランティアの内容が
違っていた... ということになりました。

とまどいつながら被災地へ
行って来た皆様に
御苦労様でした!

事務局では、

ボランティアの人が無事に被災地での
ボランティアを終えられたとの報告を
聞かせていただき心配でした。

— また —

ボランティアの人の体験談を
聞かせてもらったり手紙を頂い
たりする度 **ホッ** として
いました。



事務局： 江崎 美子
中田 知恵子・江川 みゆき・
中野 弘美・竹園 加奈子

氏名	掛村 純子	
行先	芦屋南高校	学舎前 8:10 開校前 10:30頃
活動日	H.7年 3月 1日(水) 8時 30分 ~ 16時 30分頃	
活動内容	活動内容の衣類、タオルの仕分け、おむつを箱詰め、おむつボックスを 別の場所へ運ぶ、倉庫に積み上げ作業。 ① 届けに来るおむつの箱を校舎の4階まで運ぶ作業。 ② 校舎の裏に置かれたおむつの箱を車中から運ぶ作業。 以上、おむつを運ぶ作業が多かったので、4時前には活動 終了。不安定な天候にもかかわらず、おむつを運ぶ作業は予定通り 完了。	
感想	みんなも夢中にとりず おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの おむつを運ぶのは、ボランティアの	引継 交通事情を詳しく書いてください。


阪神大震災支援センター

どうもありがとうございました。



阪神大震災支援演奏会

ハーブの夕べ



ハーブ演奏者 池田千鶴子さんによる チャリティー演奏会と
神戸市長田区・芦屋市における支援演奏会を開催しました。

Part 1

宇治市生涯学習センター チャリティー演奏会

1995年3月16日(木) 宇治市生涯学習センターにて、チャリ
ティー演奏会が行われました。また演奏会終了後には、総合福
社会館にて、支援に参加された方の体験報告会と交流会も、行
われました。

準備期間も短かく、当日は、
あいにくの雨。その様の中、大
阪や神戸から演奏会にかけつけ
た人もいました。また、池田さ
んのすばらしい演奏と体験談に
涙する人はけなくありませんで
した。その1人、リーディング
ボランティアの米澤久子さんは、
後日この演奏会を収録したテー
プに、被災地での様子などをサ
レシジョンした編集テープを
作製されました。

芦屋の共同作業所
「なかよしクラブハウス」
の倒壊家屋の中から運び
出された製品を、当日、
生涯学習センターロビー
にて販売。また、ロビー
の壁に、「なかよしクラブ
ハウス」の活動を紹介し
た写真なども 展示しま
した。



ロビーでは...



報告会では...

3月16日 福祉会館¹²⁷

ボランティア活動を通じて 学んだこと、感じたこと、自分達のできる事は何か。様々な意見が出土しました。

毎日新聞
きょうと版

1995年
3月27日(月)
「支局長から
の手紙」
より

「人生の小道具」

先日、宇治市社会福祉協議会の阪神大震災支援センターが開いたチャリティコンサート「ハープの夕べ」に行きました。がんや難病に苦しむ患者や障害者、震災で亡くなった被災者遺族を支援しているユニゾン・コンサート、池田千鶴さんの演奏と語りかけを聞き入りました。

「私の演奏を通じて『あなたに同じ地球に生きていて幸せ』と語りかけた後で一人。余命の少ない患者でも同じくは生きていける人々。貧しくて治療を受け合っている子供たち。そして『あなたに同じ心』と、今の病中の生活で疑問を抱く『なぜ』」

池田千鶴さんは震災活動を「人間とつながる」とし、「私の『人生の小道具』であるハープを通じて、お母さんや人々を癒やしたい」と語られていました。

「人生の小道具」は、私たちが生きていく中で必要とする道具のことです。震災後の生活で、被災地でボランティア活動をしている市民たちが池田千鶴さんを通して、体験談を語り合いました。「人目につかない仕事を黙々とやっているボランティアに感動した」「学生が交換留学や合宿を通じても活動してました」

話は今後の課題に移りました。「新学期には多くの学生が帰って来て、『障害者、お母さんにはなかったが支援の手が足りなくなる』被災者の自立の妨げにならない活動として『ハンサムな活動』」

その後の挨拶で、池田千鶴さんからは「ボランティアのメンバーは高槻市の小学校と幼稚園の被災者支援委員会を訪問した」「人生の小道具を通じて池田千鶴さんやボランティアの方々は、被災者たちから多くのことを学んだ」として「(田中) 孝・手塚 愛・藤村 洋明 様」

くれる人々の生き方から、私の方が人生を教えていたのではないかと感じます。

弾みかれしハープの音色よみいと
心涙と泣いて涙に委ねぬ
ふびる大地震れ声失ひし小鳥たり
ハープに合せ和ひけしむる
理科室の隅におかれし十姉妹
シューベルトの子守歌ききよてわらうぬ
避難所は故郷の曲流れよて
まよる人らしみによきて
人生の小道具といひてハープ弾く
人と携りて時すぶやケリ

大正三十七
米澤久子

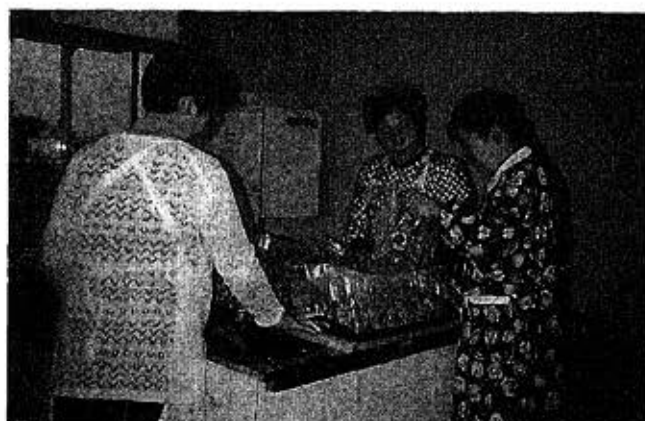
支援センターに送った句

Part 2

芦屋市 精道小学校にて支援演奏会

1995年3月17日(金) 精道小学校にて、支援演奏会が行われました。同日、芦屋市総合福祉会館では、ボランティアの人たちが、18日の芦屋での支援演奏会の時、被災地の人たちに食べてもらおうと、1日クッキー作りに精を出していました。

この日集まったボランティアの中には、被災地でのボランティアは難しいけれど、地元芦屋で何かお手伝いできるなら……と、主婦の人やろうあ者など、いろいろな人たちが、自分の都合の良い時間に自由に参加していました。



出来上がったクッキーの袋詰め

作業終了!!
ホッと一息



Part 3

芦屋市 西山幼稚園にて支援演奏会

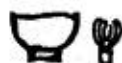
1995年3月18日(土) 西山幼稚園にて、支援演奏会が行われました。演奏会と同時に、園庭にてボランティアによる手作りクッキーと紅茶の接待と、国際ソプラニスト宇治の方のお点前によるお茶会が行われました。



◀ ハープ演奏者
池田 千鶴子さん
と
フルート演奏者
塚田 浩一さん

国際ソプラニスト宇治の

平井 晶子さん
曾谷 和子さん
庵 喜代子さん
上村 てる子さん
上村 さんの娘さん
西山 正代さん
北村 賀津子さん



ごきょうせまでした!

寄贈

茶せんじ
500人分

宇治川餅さんより

お抹茶を

(社)京都府茶業会議所
より

🍵 ありがとうございます!

ながよしクラブハウスとの交流

.. 出会い ..

この新聞記事をたよりにながよしクラブハウスを
訪ねたのが、始まりでした。○

京都新聞 2月22日

1 17頁版 (昭和29年3月1日創刊第40680号) 第40680号 京都新聞 2月22日



新しい作業所でできた

遅した。

11年前に設立

無事の張り紙
無事です。子でた

京都新聞 神戸新聞
合同企画

まき

それぞれの再建

みんなを見守る「母」

ながよしクラブ

11年前に設立された「ながよしクラブ」は、京都府の山科区にあり、障害のある子どもたちのために活動している。このクラブは、1918年に設立された。当初は、京都府立山科高等学級の児童が中心で、その後、障害のある子どもたちが多く参加するようになった。現在は、約30名の子どもたちが参加している。クラブでは、音楽、絵画、手工芸などの活動が行われ、子どもたちは互いに支え合いながら成長している。また、地域社会との交流も積極的に行われている。このクラブの活動は、障害のある子どもたちの自立と社会参加に大きく貢献している。

古い住居が狭小で、障がい者たちが暮らすのが困難な状況であった。この問題を解決するために、京都府が「ながよしクラブ」の活動支援として、山科区に「ながよしクラブハウス」を建設した。このハウスは、約100平方メートルの広さがあり、障がい者たちが安心して暮らすことができるよう設計されている。また、クラブの活動スペースとしても活用されている。このハウスの建設は、障がい者たちの生活の質を向上させることに大きく貢献している。また、地域社会との交流も積極的に行われている。このハウスの建設は、障がい者たちの自立と社会参加に大きく貢献している。

新しい「家」での再出発。川崎富子さん(右)を囲む「子どもたち」にも明るい笑顔が戻ってきた。(撮影市打出小雄司)

山科区の小学校が、障がい児の生活支援を目的として、山科区に「ながよしクラブハウス」を建設した。このハウスは、約100平方メートルの広さがあり、障がい者たちが安心して暮らすことができるよう設計されている。また、クラブの活動スペースとしても活用されている。このハウスの建設は、障がい者たちの生活の質を向上させることに大きく貢献している。また、地域社会との交流も積極的に行われている。このハウスの建設は、障がい者たちの自立と社会参加に大きく貢献している。

入居費を工面
子どもたちが安心して暮らすことができるよう設計されている。また、クラブの活動スペースとしても活用されている。このハウスの建設は、障がい者たちの生活の質を向上させることに大きく貢献している。また、地域社会との交流も積極的に行われている。このハウスの建設は、障がい者たちの自立と社会参加に大きく貢献している。



交流を深めた一泊旅行



日程... 1995年3月26日(日)～27日(月)

スケジュール... 26日 12:00 JR宇治駅到着
平等院, お茶席, 宇治川沿い散歩

16:30 総合福祉会館 到着
入浴, 夕食 (金料理)
～ボランティアさんの手料理～

20:00～22:00
交流ミュージックと川崎先生(所長)
E 囲んで交流会

27日 7:00 起床 **おはよー!**

8:00 朝食
10:00- 木陽ヶ丘から天ヶ瀬ダムへ
森林公園にてバーベキューパーティー

13:00 JR宇治駅出発 **バイバイ**

◆...あの日、阪神大震災で古い住宅が軒並み崩壊。ようやく再建に始めた活動が始まった。高屋市の障害者共同作業所「なかよしクラブハウス」の関係者たち二十人が二十六日と二



(1995.3.28 洛南4(42*))

素晴らしい感動ありがとう

被災地・高屋市からなかよしクラブ

宇治でボランティアたちと交流

なかよしクラブハウス

◆宇治市での交流会

◆宇治市での交流会

◆宇治市での交流会

は十一年前、高屋市内の小学校で障害児支援センター・阪神大震災支援センターのボランティアたちが障害者たちの被害状況を気にして、宇治川沿いで野営パーティーです。最高級の味でした。高橋良知

くざれている高屋市。

いよいよ実現しました。どのようにしていきたいと思います。松本サカ

高橋良知

高橋良知

なかよしクラブハウスのみなさんからいただいた寄せ書きです...

なかよしクラブの仲間からのお便りよ...



■ 素晴らしい演奏で 舞台と聴衆が一体となるような、
心暖まるコンサートでした。 <Wさん>

■ 最後に守治のお友達と一緒に歌うことができて、ス・ア・コ・レ・曲
をご支援下さいました。全員で歌い楽しむは、日々の
なやみもどきえやら 充ちておりました。 <Mさん>

■ 私はマリバの演奏を聞くのは初めてだったので、
マリバの音は きれいですね。パイプオルガンのように音が
響き、大変きれいでした。 <Nさん>

● マリバコンサートは とても良かったです。私の大好きな歌がありました。
それは、「川の流れるように」です。
みんな、私たちがこども覚えていく中で、とてもうれしかったです。
又行きたいと 思いました。ほんとうにお世話になりました。
ありがとうございました。お茶やクッキー 大変おいしかったです。 <H.Mさん>

● コーヒーをいけただいて かんげしました。お仲間さんに やさしくて
いたっていて ありがとうございます。
私も がんばります。 <Y.Aさん>

● こないだの守治のコンサート 見に行ったときには、お友だちたちが、
私の事も おぼえてくれています。ものすごく うれしかったです。
仲太クラブとお友だちさんと一緒に 前線に出て、「今日の日は
さよなら」を歌いました。歌いながら なみだが できました。
<Kさん>

■ コンサートが始まり、マリバの美しいしるべに くり聞き 踊りました。
遠くは 体リズムに 集めて 楽しんで いました。
みんなは、何ヶ月振りのお披露目。 <Y.Tさん>

■ 私は胸がいっぱいになり、何も歌えなくなり、川崎天皇のお札
の言葉も 耳に入らず、人間の素晴らしいと目のあたりを見て、
今まで流した涙の 涙を 流しました。 <Yさん>



▲ 平等院をバックに はいチーズ!! (3.26)



▲ 宇治川のほとりで"バーベキューパーティー"
「おいしいね..」

夜・福祉会館 ▶
で 鍋料理を
かこんで お話
が 盛り上がり
ました。



◀ マリンバチャリティコンサート

マリンバ演奏終了後

なかよしクラブハウスとフリーフリークラブ
のみなさんと 歌を歌いました。

舞台上で 緊張がみな..?

1960年11月20日
 2月21日、2月22日
 2月23日、2月24日、2月25日
 2月26日、2月27日、2月28日
 3月1日、3月2日、3月3日
 3月4日、3月5日、3月6日
 3月7日、3月8日、3月9日
 3月10日、3月11日、3月12日
 3月13日、3月14日、3月15日
 3月16日、3月17日、3月18日
 3月19日、3月20日、3月21日
 3月22日、3月23日、3月24日
 3月25日、3月26日、3月27日
 3月28日、3月29日、3月30日
 3月31日

1960年11月20日
 2月21日、2月22日
 2月23日、2月24日、2月25日
 2月26日、2月27日、2月28日
 3月1日、3月2日、3月3日
 3月4日、3月5日、3月6日
 3月7日、3月8日、3月9日
 3月10日、3月11日、3月12日
 3月13日、3月14日、3月15日
 3月16日、3月17日、3月18日
 3月19日、3月20日、3月21日
 3月22日、3月23日、3月24日
 3月25日、3月26日、3月27日
 3月28日、3月29日、3月30日
 3月31日

思い出のセンターホテ
 2泊3日

1960年11月20日
 2月21日、2月22日
 2月23日、2月24日、2月25日
 2月26日、2月27日、2月28日
 3月1日、3月2日、3月3日
 3月4日、3月5日、3月6日
 3月7日、3月8日、3月9日
 3月10日、3月11日、3月12日
 3月13日、3月14日、3月15日
 3月16日、3月17日、3月18日
 3月19日、3月20日、3月21日
 3月22日、3月23日、3月24日
 3月25日、3月26日、3月27日
 3月28日、3月29日、3月30日
 3月31日

一番の思い出は
 パーベキューパーティーです。
 一生続けたいですね。
 最高の味でした。
 高橋良知

旅館ではクッキーやどら
 子を食べても歌を歌ったり
 楽しかったです。
 高橋道夫

足立有加
 熱帯山をたいてす

1960年11月20日
 2月21日、2月22日
 2月23日、2月24日、2月25日
 2月26日、2月27日、2月28日
 3月1日、3月2日、3月3日
 3月4日、3月5日、3月6日
 3月7日、3月8日、3月9日
 3月10日、3月11日、3月12日
 3月13日、3月14日、3月15日
 3月16日、3月17日、3月18日
 3月19日、3月20日、3月21日
 3月22日、3月23日、3月24日
 3月25日、3月26日、3月27日
 3月28日、3月29日、3月30日
 3月31日

1960年11月20日
 2月21日、2月22日
 2月23日、2月24日、2月25日
 2月26日、2月27日、2月28日
 3月1日、3月2日、3月3日
 3月4日、3月5日、3月6日
 3月7日、3月8日、3月9日
 3月10日、3月11日、3月12日
 3月13日、3月14日、3月15日
 3月16日、3月17日、3月18日
 3月19日、3月20日、3月21日
 3月22日、3月23日、3月24日
 3月25日、3月26日、3月27日
 3月28日、3月29日、3月30日
 3月31日

神戸がんばれん!

5/4 ちびっこカーニバル in KOBE
5/14 神戸わんぱく祭り

復興支援のイベントのお手伝い 祭りに行ってきました。

🐞 その1 5/4 『ちびっこカーニバル IN KOBE』 生田川公園にて。☀️



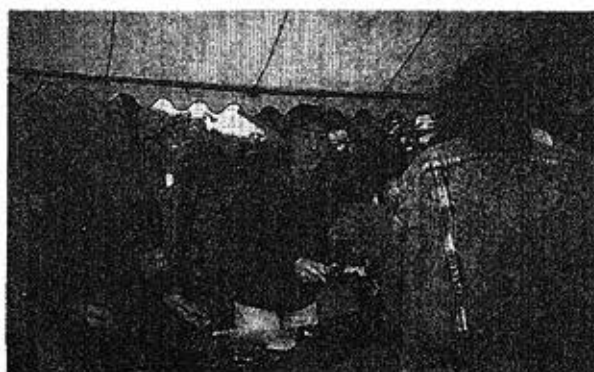
大きな鯉のほりがひるがえる中、子供たちの元気な声
会場 いっぱいに広がっていました
宇治から参加した ボランティアは、うどん屋のお手伝いや、
カレー屋のお手伝い...と いろいろな事をしていました
ボランティアの多さに、「何かしたい!」というお母さんの気持ちがある
に 改めて気づかされた 1日でもありましたね。

🐞 その2 5/14 『神戸わんぱく祭り』 神戸総合運動公園にて。☂️



被災した子供らに見いけり遊んでもらおうと企画されたこのおまつり。
雨にもかかわらず 2万5千人の人が遊びに来られたそうです。
宇治から お茶(お抹茶)と 茶たぐいを 持って参加しました
雨で肌寒い中、暖かいお抹茶は 大人のみならず、子供達にも
大人気でした。茶たぐいが 品切れになってからは、子供達に
お茶のたて方を 経験してもらいました。...

お母さんの心に 1つまでを 残してほしいと 思いました。



「茶たぐい いかがですか?」 (5/14)

MARIMBA

マリオンバ 恵良真理

チャリティーコンサート

CONCERT



5月 27日(土)

午後 1:30 開場

2:00 開演

宇治市文化センターホールにて

マリバ演奏者：恵良真理
西村 康子

ピアノ：藤井 智文

「なかしクラブハウス」の再建を支援しようと、このチャリティーコンサートが企画されました。

3月26、27日の一泊旅行以来の再会をみなで喜びました。

お昼前に宇治駅に到着したなかしクラブハウスのおんばと文化センター隣の会館で昼食をとりながら、いっぱいお話をしました。

その後、宇治のフリーフリークラブのおんばとリハーサルをやり、いざ本番!!

— すばらしいマリバの音色に、うっとり。あついな間のマリバの演奏でした。フィナーレではフリーフリークラブのおんばと一緒に大合唱!!

おんばのうれしそうな、はすかしそうな顔が、浮んできます。

本当に最高のコンサートでした。

みなさん、ありがとうございました!

恵良真理マリオンバコンサート

芦屋 共同作業所支援に230人が呼応

フィナーレは仲間とともに大合唱

【恵良真理マリオンバチャリティーコンサート】(実行委員長 恵良真理)が二十七日、宇治市文化センターで行われ、約二百三十人の参加を誇った。恵良真理の指揮によるマリオンバの音色が響いた。阪神大震災で被災した芦屋市内の無認可共同作業所「なかしクラブハウス」の再建を支援するもので、フィナーレでは芦屋市から仲間が駆け付け、大合唱を盛り上げた。宇治市の「フリーフリークラブ」のメンバーと共に大合唱を披露、会場から拍手喝采を送った。

「なかしクラブハウス」が、今年二月に阪神大震災 四三三には「なかしクラブ」としての名称は宇治市に 出の支援を目的として「なかしクラブハウス」の名称が決定し、宇治市に届けられ、「フリーフリークラブ」の名称が決定した。今年度の活動は地元の共同作業所「なかしクラブハウス」の再建を支援するもので、会場から拍手喝采を送った。



【フィナーレで大合唱を披露する仲間たち】

人の思いが一つに集まると、このほか多くの人々が参加し、会場が沸き立った。コンサートでは四ヶ原 子(マリオンバ)と藤井 智文(ピアノ)も参加し、フィナーレの演奏に「フリーフリークラブ」のメンバーと共に大合唱を盛り上げた。



阪神大震災に対する宇治市社協の支援活動について

宇治市社会福祉協議会

事務局長 戎谷真人

1月17日早朝、大きなショックで叩き起こされた。

1月18日、すぐに義援金の受付窓口を設置した。

1月19日、市社協の定例理事会で、阪神大震災への救援活動を進めていくことを決定した。内容は、①義援金受付について町内会・自治会に協力依頼を再度行うこと、②義援金受付について各団体に協力依頼を行うこと、③現地に入り被害の実情等調査するため社協役職員、ボランティアを派遣するの三点を決定した。

1月21日、伊藤義明副会長を団長とした現地派遣団を西宮市へ派遣した。以後25日まで役職員、ボランティアを同地へ派遣。

1月31日、市社協評議員会で救援対応の強化を決定した。具体的には、①現地派遣、ボランティア登録については京都府社会福祉協議会の依頼を受けて対応していくこと。②ボランティア紹介については現地被災地での活動はもちろんであるが、本市へも府営西大久保団地などへ避難されてくる方々に対する支援も取り組んでいくこと。③このためのボランティア調整事務局をボランティア活動センターで作っていく。④義援金は引き続き呼び掛けて行く。などである。

その後2月2日から15日まで芦屋市社協、宝塚市社協まで事務等の支援に職員派遣を行った。

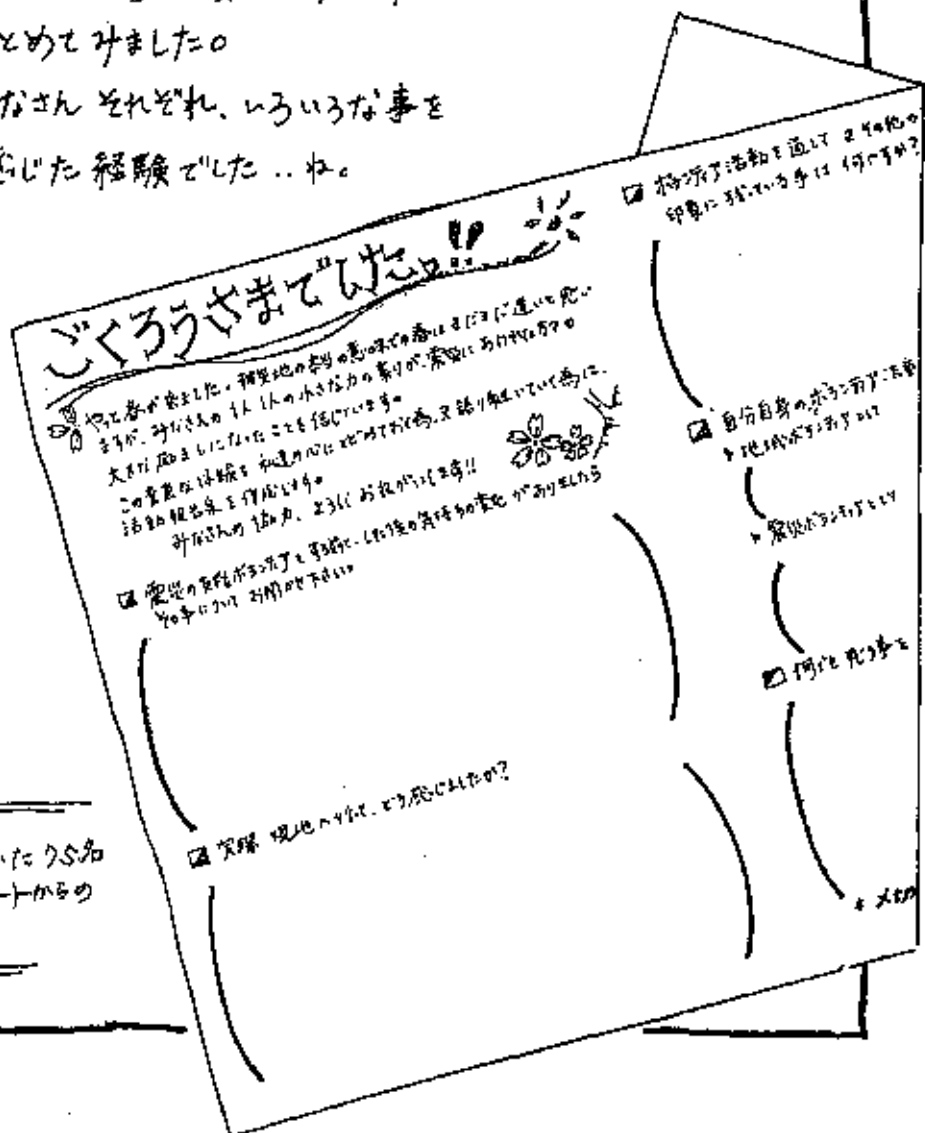
2月10日には、ボランティア説明会を午前と夜間に持ち震災支援の力になりたいと言う130人の市民が参加した。市や府、市民団体などの取組の報告を受けた後、ボランティア登録や保険、支援先の紹介システムなど説明し登録を受け付けた。また、総合福祉会館内での情報ボードの設置や、ボランティア相談窓口の開設などを決め、ボランティア活動センター内に阪神大震災支援センターを常設した。

支援センターを中心とした活動は被災地とボランティアを結ぶ調整活動が中心で、職員とボランティア4名で事務局を構成した。4月10日までの活動実績は延べ約700人が参加した。支援センター発足後の主な活動は避難所や物資センターなどへのボランティア活動参加、学区福祉委員会などによ



みなさんの声

みなさんに書いて頂いたアンケートを
 まとめてみました。
 みなさんそれぞれ、いろいろな事を
 感じた経験でした...ね。



返答いただいた方々の
 アンケートからの
 抜粋です。

芦屋南高校での物資仕分け

ボランティアさんの1日

行ってきます!

8:30 京都駅大丸ビル集合

お札を出している、宇治-大阪のきっぷを買って下い。

8:47 発 ⑤ホーム (芦屋行き乗車)

9:20 頃 JR 大阪駅着 阪神電車に乗り換える。

阪神(梅田)発

西宮まで「有明」で乗車
普通に乗換えて下い。

⑤ホームで梅田へ下り
12:45頃大阪駅到着

阪神(打出)着

徒歩15分程度

芦屋南高校着

こんにちは! 宇治市からボランティアで来たんですけれど...

- ① 受付(?)の1-1に名簿を記入
- ② 事務局(棟梁室)の奥の922の部屋に荷物を通す
(この部屋で着換えることも可能!)

作業開始!! 作業は外でのので防寒着!!

現場に到着している方がおられるので、各自自分の持ち場に移動し始める...
お疲れ様です。作業されている所へ行って自分の持ち場に入っていく
のって長い作業はないでしょうか? 「何しよう? 何しよう?」と
聞かれるので、自分の見て、できる事を探して下い。

お昼ごはん(持ち帰り用)のみは、新しい1休めします。
11:30頃お昼ごはんを食べて下い。その後、お昼ごはんを食べるまで、一度、自分の持ち場に戻り下い。

再始!

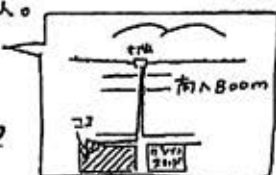
作業終了(16:30頃)

一本は「この作業が終わった」という指示の元、帰るためのバス、16:30頃、
作業終了と一言かけて、帰って下い。

お疲れ様でした。

11:30の電車に乗り換えて下い。帰るまで、
直ぐに下い。

たまたまいませ〜。



初めて行く
ボランティア。
その日オリダ-の方
に誘われて、2月3日
の毎日、ボランティアを
ついでていきました。



芦屋南高校での救援物資仕分け作業ボランティアに参加して

蒲生 弘好 ・ 蒲生 嘉子

前回、奉仕活動に参加して、再度の参加を申し込んでいたところ、表記の募集ありとの連絡に、早速参加させていただきました。

往路の車窓に写る光景は、以前と比べてこと無く変化があり、少しはほっとさせられました。現地芦屋南高校は、救援物資の中継基地になっており、各地から寄せられた物資が整然と高く積み、日本全国は勿論、世界各国からの救援参加に、改めて人の暖かさを感じさせられました。

今回の仕事は物資の仕分けが中心で、各地から送られてくる品物を、被災者の方に万遍に渡るように、種類別に細分化してダンボール箱に積み替える作業です。いろんな物がいろんな形で送られ、この基地に中継搬入されてきます。靴下、タオル、毛布、下着類、洋服等種類雑多、それをサイズ、男女、形式等に分けて、一目で判別できるように、箱おもてに明記して積み上げる作業で1サイクルです。これを何回も繰り返して、夕方までの奉仕でありました。前回は手弁当持参で参りましたが、今回は昼夕2度の弁当支給があり、時の経過復興の早さに驚いております。

さて、作業をお手伝いしていて気付いた事が幾つかあります。まず、

1. 救援物資として送ってくださる方に一言、不用品と物資の混同、分別にお気をつけてください。貴方の要るもので余分にあるものが被災者も欲しいのです。
2. 着古し等の物は避けてほしい。洗濯済みの物は未だしも、今まで着ていたような物、今まで寝ていたような毛布等、ちょっと常識では考えられない物が送られてありました。
3. 救援物資は各自治体単位で仕分けと保管を考えてみてほしい。

全国共通のマニュアルを作り各自治体（市町村単位）がボランティアを募り、各地で作業と保管に務めリストをインプットすれば被災地から直接オーダーが出来て、奉仕する人も手軽に市役所や町役場で活動できるのではないのでしょうか。

高校生、大学生、OL、主婦と年齢もまちまちの方々と芦屋南高校へ三度参加し、どのグループにも共通するのは、報道で見たのとは別の実際、目の前にある状態の生々しさ恐ろしさでした。

現地では他のボランティアの人達などから芦屋以外の貴重な情報など聞くことができ、良い経験をさせていただきました。

見事な連携プレーでの荷物運び…。主婦の知恵、若手の手際よさ、男性の力強さ、女性の心配り、始めてあった人々の集まりとは思えないほどの連帯感には感心しました。軽トラックの荷台に20名、30名のって、避難場所から場所の移動も、この様なときならの事でしょう。

芦屋南高校へボランティアに行かなければ分からなかった事の一つに、物資を送る側の（みなさんの善意はよく分かるが…）大切なこととして、衣類の汚れや破れのない物、今、このときに一番必要なものは何か（中には着物もありました）など…。自分自身本当に良い勉強になりました。

住吉中でのお風呂ボランティア

山本 博之

週末で人手も多く、初めての事でもあり大した事は出来なかったが、自分なりにいろいろ考える事ができた。

『風呂に入れて良かった』と言う一言がとても嬉しかった。

『被災者のために大した事をしよう』と思うのは思い上がりで、それよりも一時だけでも心が温まる思いをするほうが、自分には貴重なように思えた。





須磨区避難所でのおもちゃ配りボランティア

西坂 多加子



2月19日神戸のマリスト学園に「おもちゃステーション」のお手伝いに行きました。阪神梅田で集合し、代行バス等により乗り継ぎ、神戸の若宮小学校に…。窓から見る風景には、まざまざと現実を思い知らされる思いでした。テレビ等の映像では幾度となく目にしている光景でしたが、胸が締め付けられる思いでした。

私達4人は、マリスト学園に行きましたが、当日日曜日と言う事もあって、子供達もほとんどいなく、他の手伝いを…と思いましたが、かかりの方も今日の所は別に…。体育館で避難されている一人暮らしのお婆さんと、30分くらい話をして終わってしまいました。

気持ちの中では色々複雑な物がいっぱいと思いますが、前向きに頑張ってる方でした。

帰りはバス停まで送って頂き、お手伝いなんて何もできなかったけど、風景とてうらはらに、何かしら暖かい物を感じ、神戸を後にしました。

「頑張ってください」一番口に出しやすい言葉ですが、3カ月も過ぎてしまうと、この言葉も掛け辛くなってきました。

クッキー作りボランティアに参加して…

和田 豊美



阪神淡路大震災の支援ボランティアさんたちとクッキーを作りました。
 いろいろなクッキーをたくさん300袋も作りました。
 私はクッキー作りが大好きです。被災者のためにクッキー作りに
 参加して大変良かったと思います。ボランティアのみなさんと会って
 手話を知らない方が多かったため、身振りでお話をしました。
 また、手話を教えてあげました。いろいろな人と出会い、
 よかったなあと思いました。なかはくクラブハウスの皆さんが宇治に
 来ておくり休んで頂きよかったです。地震に負けないで
 がんばってください。



大学生連合主催による、この度のボランティア活動、若い人に混じって自分に何ができるだろうか？若者の足を引っ張る結果になるのでは…としたら今回はやっぱりやめようか、次の機会にはもっと頑張れることがきっとあるかも…でも折角自分が何かをやろうと決心したチャンスがあるのだから勇気を出していかなば…と、揺らぐ心にムチ打って阪神梅田駅の改札口へ、少し早い目に着いたが、目指す『おもちゃステーション』の看板は無し。改札口は神戸地区へのボランティア団体と見受けられるたくさんの集まりで混雑して、今度の大震災がただ事でない、と言う『実感』でピリッと身がひ岸丸思いをした。

若いリーダーの説明を聞きながら、何ができるだろうと不安はまだ残っていたが、こうした若者に混じって緊張した自分が確かにいる。何か自分のぞんざいを自分で確かめているといった感じがありました。

そして車窓から見る想像を絶した外の大惨状！思わず目頭が熱くなり、目は窓の外に釘付けになり、言葉はのみこかだまま何も出で来なかった。

避難所となった小学校で、元気そうに遊ぶ子供達、忙しく立ち居振る舞う大人たち、とそれぞれの思いがかさなったコントラストの風景の中、若者と一緒におもちゃを満載した自転車で目指す避難所へ到着、待ち兼ねていたチビッコたちが、ワーイ！と玄関へ殺到と思いきや、先刻同じボランティアさんが来られました。と言う対応で一司ガックリ！

しかし即気持ちを取り直して、玄関前に『フーテンの虎さんよろしく』チキ屋開店！この頃になるも私の不安は何処かへふっ飛んで居た。

そして思った事。

とにかく先ず体を動かす事。案じるより生むが易市。ボランティアの第一歩はここから…。



テレビラジオ・新聞で被災地の状況が報道される度に、何かお手伝いしなくてはと、少々ではなく大いに気負い来んでの参加ではありましたが、何度か電車・バスに乗り継ぎげちにむかう最中、想像を絶する情景に声を奪われ、正に茫然自失、ただ黙々と須磨区若宮小学校避難所への徒歩でありました。

現地到着が12時前でもあり、早めの昼食を済ませTOPリーダーを待ちましたが、車の混雑等で遅れられ、要約の活動開始でありました。

私達の担当は、軽トラックにいっぱいのおもちゃ等の配達です。近くの避難所でありながら、ガレキや倒壊家屋で道を塞がれ行きつ戻りつしながら届ける事ができました。垣間見るに体育館やテント等に整然とかつ大量に、いろんな救援物資が並び積み上げてありびっくりしました。

避難所の方の指示のままに、『おもちゃ』の入った箱をおろして、また若宮小学校に戻りました。この間約3時間ほどの活動であり、気負って参加した者にとっては少し物足りなく、こういう状況下でのボランティアとはこんなものかなあ…と思いました。少し自分に反省させます。

いずれにせよ、あの倒壊した家や隙間、段差のある道路、ガレキの山、被災地『神戸村』を見たとき、これが我が家であったならと思うとゾッとしました。震災に遭遇された人だけが語る事ができ、見ただけの私達には到底語る事の出来ない恐ろしい事が起こった兵庫県南部、今後もボランティア活動への参加を心に誓い、私達は家路に就かせていただきました。



震災ボランティアとして

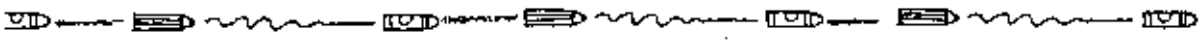
亀井 やよい

震災から、日が過ぎていくにつけ、個人ボランティアの限界を強く感じ、支援ボランティアの一員としての意味を深く感じました。

最初の頃は、本当に一人でも多くの手助けが必要で、足りないものばかりだったと思います。しかし、小さな避難所では、物資が余り届いていない状態で、避難所によってはの差がありました。そんな時個人では、情報がなかなか掴めなくて、横の連絡のできる支援センター等の、働きは大きかったと思います。

芦屋南高校での物資の仕分けは、送りての人となりが見えるときもあり、涙が出るほど悲しかったり、見習うべき送りての品物に手が触れた時は、みんなで感動したり…と、本当にいろいろと勉強になりました。

宇治市民として、この様なボランティア支援センターができた事は、とても誇りに思います。



引っ越しボランティア

小池 正志

ボランティアに関する意識が甘いと、痛烈に感じた日でした。作業そのものは楽と言うか、大した事はなかったんですが、なぜかつかれました。

伊藤 隆太

僕は、芦屋市で被災されたご夫婦のお引っ越しを手伝いに伺いました。お二人で暮らすようでしたが、タンスから衣類などたくさん荷物を見ると、一度引っ越しするとなると、大変だと痛感しました。

そのとき思ったのですが、ちょうど引っ越しの時、そのご夫婦の娘さんが、手伝いにいられているのを見て、やはり家族の力は必要だし、心強いと思いました。また、トラックの運転手さんはボランティアで、運転だけでなく、荷物運びもしておられてとても感心しました。

ボランティアと言うものは、する側とされる側との普段からの信頼関係やネットワークがあってこそ、このような緊急事態でも、素早く対応できていくものだな、と、思いました。

とても気持ち良い汗をかくことができました。また、お手伝いできればと思います。





岡野 英一 様



被災地に対するさまざまな活動の御支援
ありがとうございます。

活動報告集を作成するにあたり、

あなた様の 引越しボランティア

についての貴重な体験の御感想をお聞かせ下さい。
よろしくお願ひします。

2月23日正午頃、芦屋市の社協現地本部からの連絡で、全壊した老夫婦世帯が伊勢田のマンションに引越されるので、家財道具の搬入のため3~4名のボランティア依頼がありました。

その連絡では、「現在(昼間)ボランティアによって搬出作業をしており、午後3時くらいに豊中の運送会社のトラックが発着するので、今日の夕刻から手伝いに入ってもらいたい」という内容でした。

急な依頼でしたが、「阪神大震災救援センター」のコーディネーター(竹園さん)に緊急の結果、2名の男子学生のボランティアが協力してくれることになり、それに市社協職員3名の計5名で搬入作業を行うことになりました。

夕刻6時前に引越し先のマンションに行くと、既にトラックは到着しており、私たちがくるのを待っている状態でした。引越しをされるご夫婦とも高齢で搬出・搬入作業をすることは困難でしたが、伏見区におられる娘さんが手伝いにいられていました。

搬送していたトラックも運送会社の物ではなく、レンタカーで大阪の運転ボランティアが一人で宇治まで搬送してきたというものでした。老夫婦世帯とはいえ3トントラックいっぱいの荷物をマンションの3階まで5人で約1時30分かけて搬入しました。

運転ボランティアの人は大阪の人材派遣会社に運転手の登録をしていて、いつもはトラックの運転で生計を立てているということでしたが、最近持っている技術でボランティア活動をする毎日だそうです、頭が下がる思いでした。

前の日もボランティア活動をしたけれど、「ボランティア活動を理解した人じゃなくて、仕事の手伝いもせず、指図と命令ばかりで、本当に疲れた」そうでした。その点、「今日のご夫婦は体は動かなくても、感謝の気持ちをもってくれたので、良かった」ということでした。

ご夫婦は1年間このマンションに無料で住めるが、その後はどうするかまだわからないらしく、多分芦屋の方へ帰るだろうといったいました。

帰りに、ホームヘルプ制度等が申請書がなくても、緊急に派遣できることを説明して、別れを告げました。

当日参加してくれた学生ボランティアも献身的黙々と作業を進めてくれて、ご苦労さんでした。

見も知らない町、宇治の人々が暖かく迎えることによって、ご夫婦に少しでも心のゆとりが持てればいいのですが。

ありがとうございました。

引っ越しボランティアとなかよしクラブとの交流会

松井 芳子



引っ越しボランティア

2月初旬のある夕方、阪神支援センターに一本の電話。引っ越し荷物を積んだ車が宇治に行くので、荷物を下ろすボランティアが要、震災で家が全壊し、伊勢田のマンションに仮住まいする老夫婦の荷物だとか、もう神戸を出発しているとのことでした。

支援センターのTさんがVを探し、2人の男子学生がようやく見つかった。その話を聞いた私は、1人でも人手が多い方がと思い、家が近いこともあり、手伝いに出掛けた。総勢6人で、家具・テレビ・布団・衣類等2トン車に満杯の荷物を次々と車から下ろす。慌てて荷造りされたのか、きちんと紐がかかっておらず、ガムテープが外れて食器が飛び出し割れるハプニングも。狭い階段とエレベーターを使って2階まで荷物を運ぶ、さすが若い男の子は力があり、“すごーい”それに引き換え、私といえば軽い荷物を運び、エレベーターのボタンをおし続ける役。『こんな人間もひつようだーい』と一人で納得。約1時間で終了、住人の方にとっても喜んで頂き良い汗を流しました。Vの方々に誠にご苦労様でした。

余談…この引っ越しが縁で学生Vの一人と社協が、ガッターイ！

なかよしクラブとの交流会に参加して

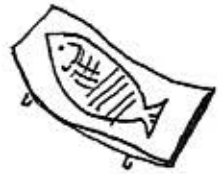
3月26日午後12時過ぎ、初めて出会った仲間なのに何の拘りもなく、ワイワイガヤガヤと一緒にラーメンを食べています。

『なかよしクラブの皆さんようこそ宇治へ』…

手をつなぎ平等院に向かって行進です。『ここはぜんぜん家壊れてへんわ』『ほこりがあらへん』『空気が着れ嫌な〜』。バスが工事中の鉄板の上をダウン・ゴーンと通る音で『あー地震や』と道端に座り込む男の子、『コワイ』『だいじょうぶよ』こんな会話を聞きながら、この子達は神戸の被災地から来たのだと改めて感じました。平等院・対鳳庵・中之島と宇治の山々を眺め歴史と自然の中で、しばしの間埃っぽい神戸の町を忘れて頂けたようでした。

さあ、“福祉会館ホテル”に到着、ボランティアの方々が次々と集まってきます。調理室ではコック長?のYさん・板長?のEさんの鮮やかな包丁捌きと共に、他の人は器を並べ、野菜を切りと手際よく準備が進んでいます。





メニューは、「鍋物にお造り・魚の煮付け…」とすごーい。

お風呂に入って皆でお布団敷いて、いよいよ待望の夕食。

『いただきまあーす』鍋をつつきながらの歓談。人形劇・歌・ギターと交流は続いています。後片付けと朝食の準備を終え11時、10人程のボランティアは宿泊です。『明日は6時起き、早く寝よう』と枕を並べて又々おしゃべり。『あーもう1時だ、おやすみなさーい』心地よい疲れと共にグーグー。

震災支援センターの努力で『温かい食事がしたい』とのなかよしクラブの希望が短期間で実現。宇治のボランティアの方々の暖かい心に支えられ、囲まれての楽しい交流会になりました。

そしてボランティアどうしの交流も深まり、意外な一面を知ることが出来た素敵な場でもありました。交流会に参加させていただき本当によかったナーと思っております。ありがとうございました。



宇治のタリフリークラブのメンバーと本者に
夕食後のひととき。歌って踊って… ♪





なかよしクラブハウスの仲間たちとの交流

橋本 真由美

初めは、震災で心のダメージなんかが大きいかな？と心配して居たけど、思ったより元気すぎて圧倒されてしまいました。私のほうが少し緊張して居ました。皆私より年上の人が多かったけど、全く関係なかった。名前が分かるとすぐ話し掛けてくれて、一緒に話しをしたり、お互いに触れ合っているうちに、ずーと前からお友達だったような、そんな気がしてきた。皆と話して居ると自然だし、普段の自分は、少し無理している自分かな？と反省させられた。

皆お風呂を喜んでくれたのが良かった。「言葉が出へんくらい気持ち良かった。」の一言ですべてが籠って居た。

御飯の時にいろいろお話ししたのだけれど、その中で“はなちゃん”という子の自分自身のことをしっかり管理して、家の事もきっちりしているとのことで『すごくえらいなぁーっ』と感心した。たくさん食べて、ジュースを飲んで、ほっこりした時に零れた皆の笑顔が、ずーと頭に焼き付いて居ます。風邪を引いてしまってしんどい子もいたけど、手を握ると安心して居た。

知り合いの方が、不幸にあったのを思い出して、泣いてしまった子がいたり、と、やはり明るく振る舞って居ても、心のどこかで強い悲しみや恐怖感が残っているんだなと感じた。

お昼は元気だった花ちゃんと、夜は手をつないで寝た。私は余り人と手をつないだりするの嫌いな方なのに、凄く安心できた。花ちゃんもきっと安心して寝れたのでは…と思っています。

なかよしクラブの先生に、『いつもボランティアに行っていて楽しんで、こっちが何も与えてあげてないような気がする。』と、言う事を話したのですが、『ボランティアはそういうものだと思いますよ。何かをしてあげようと言うのは、見下してその人を見ていることだから、お友達になってあげてくださいといっています。』と、言う言葉にと手も嬉しくなって、ホッとしました。バーベキューでみんなふざけて歩いて、買い物をして、とても長くて短い2日間でした。特別な事は何も言わなかったけど『おねえちゃん、また来てね。』と言う言葉がとても嬉しかった。

お別れするときは、本当にあっというまに行ってしまうと、泣きそうになり

ました。一年一緒に居る友達よりも、深い友達になれた気がしました。
必ず、なかよしクラブの方に遊びに行きたいと思っています。

尾野 由紀子

一日目は主に合所仕事で、これは主婦業30年の私にとって何の苦もない。
数は多くても、身体を動かしていればいつかは片付く。

二日目は、天が瀬までのピクニック。刺繍と和裁の得意なお嬢さん。
『もうすぐ卒業で〇〇くんや、〇〇ちゃんと会えなくなる。寂しいね』とばかり繰り返して言っていた少年。絶対に『船木一夫の高校三年生を歌いたいのだ』と言い張って、とうとう前奏から間奏から口ずさんで、一句間違わず完璧に三番まで歌い上げた青年、“みかんの花咲く丘”をとっても気持ち良さそうに独唱した少女。バーベキューも皆とても美味しそうに食べていましたね。早春の川沿いを、綺麗なオゾンが胸一杯浴びながら歩いたね。何年振りでこんな楽しい一時を持った事でしょう。翌日は、ちょっと足がパンパンに腫れたみたいで、ぐったりしていたけど楽しい思い出として、胸の中に暖かく残っています。

芦屋の子、宇治の子、あの子たちは今、どうしてるでしょうか？
時折思い出しては懐かしんで居ます。たくさん得難い物をいただいた気がします。障害って何？

『ここに自転車を放置しないでください』って書いてあるところに、いっぱい自転車が。駐車禁止の道路にズラリ並んだ車。捨てられた空き缶。字が読めて分かっていてもやってしまう私たち。

わかっちゃいるけどやめられない。自分で自分が旨く運転できない。
それこそ障害者。



震災支援のボランティア活動について

小島 絹

伊勢田学区福祉ボランティア部に入会して初めての阪神大震災支援活動として駅前募金、また、学校のバザー収益金を被災地への炊き出しに協力いたしました。三月十二日芦屋打出浜小学校に九時出発でお昼に着きました。現地には、姫路市福崎町のボランティアが小学生からお年寄まで数名で兵庫長田区の二ヶ所にトラックで運び、打出浜では昼夜二回炊き出ししておられました。私達は、御飯、味噌汁、筑前煮、ほうれんそうのごま和え、煮物、野菜サラダ、宇治茶、キャベツを出しました。五時に渡し始めたのですが、三十分でなくなりました。ガスが不通で煮物が出来ず、困っておられました。ガレキの山、マンションも傾いて一週間前に人居された方が建て直して二重のローンに困っておられるそうです。学夜も三十センチ程校舎の間が開いていました。私も五十年前を思い出しておりました。戦争で大阪、神戸が毎日の様に空襲で、山陰線花園駅を六時に出ても大阪より交通機関が無くて歩いて行きました。神崎川の鉄橋の枕木を渡るのに足が前に出ず、下を見るのも恐ろしさで泣きたい思いで線路を歩き両側の街も焼け野原でトタン屋根にムシロをぶら下げて、レンガを積んで御飯を炊いておられました。あの時代と一緒に過ごした友達が、また、この度の震災で被災しているかと思うと、毎日心の中で祈ってあげること、また、他の方に少しでも手助けができればと願う今日です。

町内でも車椅子の方を宇治市健康医療課の主催で始まった地域リハビリ教室に開福祉センターに伊勢田より二名の方をお連れして公園や教室でのゲームに参加させていただいております。五月二十日にもアパートで一人暮らしの方の所へお尋ねしたところ、倒れておられて、救急車を頼み、知人二人に病院へ行っていただきました。頭の血管が切れて安静にとのことで、今も酸素マスクの生活です。常日頃福祉ボランティアの力があると思いました。これからも体の続く限り頑張って私の出来ることを手伝っていこうと思いました。



震災ボランティアをする前と、した後の気持ちの変化がありましたら、その事についてお聞かせ下さい。

- * 京都は被害が少なく大きく感じなかったが、ニュースや新聞を見たりすると住める状態でなく、地震の恐ろしさを自ずと感じた。支援した後は、人間の基本的な権利が最も大きい事だと今さらに振り返った。又同情だけでは、被災した人達の気持ちは理解できない。もっと身近に接するべきだと思ってた。
- * 私にとってボランティアをすると言う事は、全く初めての事でしたので地域の福祉委員の方々と協力し合って時間どおり準備ができるかどうか不安がありました。当日は雨も降り3月の末でとても寒く、多くの人達がテントにまで取りに来て下さるかなとも思いました。しかし準備したものが瞬間に無くなり『ありがとう』という言葉で来て良かったという充実感を得ました。『何かをしなければ』と思ったら自分で出来る事を見付けて行動を起こせる人そんな力が大切だとつくづく思いました。
- * 支援に行ける方の立場であれば、又少しでもお役に立つ事が出来ればと言う気持ちで参加しました。他の形での援助もしましたが、やはり現地に行けた事で自分へのボランティアの実感を味わう事が出来ました。
- * 前からやりたいと思っていたボランティアをやる事ができてよかったと思います。
- * 行くまでは遠いしと大変だともおもっていましたが、少しでもお手伝い出来てよかったとおもっています。
- * やっと心の重荷というか、心のかえが取れました。
- * 気持ちの変わりはありませんが何か自分にも技術があればと思いました。
- * 高齢化社会の到来の中、日頃から小地域での福祉活動の充実と必要性をあらためて感じさせられる。
- * 今の生活ありがたいなあと思いました。
- * 支援ボランティアには参加したが今後チャンスがあれば参加する。
- * 1日参加しただけでは、私自身の気持ちに変化はありませんが、一人一人の小さな力の集まりが、大きな力になると思います。
- * ボランティア精神は以前よりありますが、窓口が分けられなかったのですが今回社協より行かせていただき思っているだけでなく行動をおこすことの大切さを学びました

*なにしろ分量の多いことが悩み。おいしく出来上がること一途、残らないだろうか？ただそれだけで当日を迎え、気持ちの変化や余裕がありませんでした。

*前日準備の為の準備から材料調達に始まり用意周到、当日現地で炊き出しを始めてみると自分たちが考えていた風景とは少し違っていた。震災から67日目と言う事もあってなのか炊きだした物を喜んで頂いたのだと思うのだが、本当に私達の気持ちが届いたのだと信じたい。

*『甘い考えでボランティアに参加しては行けない。』テレビや新聞報道と大きな違いである。特に炊き出し等はただ一回の夕食の副食のみであったが2日又3日と続けたい気持ちがした。ただ1回の炊き出しであったが帰るとき『有難う又お願いします』と言われ返事に困った。

*ボランティアというものを、奉仕活動としての漠然とした認識しかもちあわせてなかったが、今回の大地震を通じて、これからはもっと機動的に実行のあがる活動が出来るようボランティア体制を日頃から考えておく必要があると思いました。

*自分が震災に合ったらと思うと、もっと組織的にボランティアが出来るように宇治市を越えて考え実行出来るようにしておくべき。

*行く前は何かしなければというあせりばかりが先に立っていましたが行った後はやはりまだまだやらなければいけない事がたくさんあると感じました。

*全く予期もしなかった出来事でした。当地では震度3と報じられました。それでも前後不覚の体でした。早速18日未明には救援物資を集め現地に大型トラック4台が出発する事が出来ました。又中盤には市社協として現地での炊き出しメンバーとして参加させていただきました。学区福祉の一員としてボランティアの心得は常に持ちあわせてはいたものの災害と言う大事故に始めて直面し、日毎の見聞に落ち着きたい毎日が続いています。故に始めて直面し、日毎の見一日も早く立ち直って頂きます様にと願う者の一人です。

*震災の支援ボランティアをする前は、少しでも何かのボランティアをやりたいという気持ちがありましたが、一日ではボランティアとは言えないぐらいですが、少しは役に立ててうれしく思っています



* 『ボランティア』という言葉が、とても重い意味があるように思いました。僕は一日だけ現場へ行ったのですが、当然一日だけでは、わずかな被災者の方々しか助けられないですよ。（確かにそれも大事なのですが）やはり本来は何日間も泊まるなり、通うなりして、被災者の方々やボランティアの方々と信頼関係づくりを、していくことが大切なのだらうと思いました。

* する前は『とにかく何かしなければ…』という気持ちと『私にできる事なんてないのでは…』とか『かえって迷惑を掛けてしまうかも…』と言う不安との間で揺れていました。

した後は『とにかく何かを…』と言う焦りのようなものは消えて、『自分にできること』をと考えるようになりました。

* いかに多くのものに囲まれて生活していたか。「あってもいい物」と言う考え方でなく、「なくてもいい物」という考え方になりました。もう一度原点に戻って見つめてみたいと思いました。

また、電気、ガス、水道など使えて当然。と思っていたことが、いかに大切か、多くの方々の力があって日常生活ができていたのか、あたり前と思っていたことの有り難さを感じました。

* 支援ボランティアをする前は、すぐ近くの兵庫県でとてもすごい被害があって大変だというのに、テレビの報道を通して見ると、何か遠くの国で起こった事のように感じられていました。

しかし、実際に現地に行って被害の一面を見て、支援ボランティアをした後では、今回の震災がどんなに身近かなところで起こったのか感じる事ができました。そして今回の震災を自分の事のように感じ考えることができたように思います。

* 今まで「ボランティア」と聞くと『老人や障害者の介護』がすぐに頭に浮かんで、介護の仕方や、手話を知らない素人の私からすると、『専門知識がある人しかできない』と言うイメージがありました。

けど震災ボランティアをしてみると、『物資を運ぶ事』『道に落ちているゴミを拾う事』等すぐ簡単にできる事が、現地では立派な「ボランティア」なんですね。特別に専門知識がない私でも簡単にボランティアに参加できるんだなあと、感じました。ボランティアに対するイメージが変わりました。これから何か地域のボランティアに参加したいと感じるようになりました。

* 行ったときは余り仕事がなく、
ボーとしていたので『他にもうと
必要なところがあるんじゃないか』
と思いました。

気持ちの変化は特に無かった。

* たまたま震災にあたってしまっ
た。地域に住む人達の様子を目の
辺りにして、たまたまこうして日
常の暮らしをしている自分を有り
難く、また不思議な気がしました。
まっただ中で生きていかなければ
ならない人々に、できる限りの力
を添えていきたい。

* 新聞記事やテレビの中の出来事
ではないんだと実感しました。

『ボランティア』は、ただ一方的
に施すのではなく、お互いが対等
の立場で接して、いろいろな面を
高めて行くもんだと言う事を、少
し強く感じました。

* 特に『変化』と言う事ではない
が、気持ちの持続性をどう保って
行くか、具体的な活動を少し行っ
たことによる自己満足で終わること
のない様にキープする心が大切に
感じます。

* 自分で体験したと言うことによ
って、ボランティアの大変さを感じ
ました。

* 前日からヘルニアが出て、当日
のお手伝いができるかと心配で、
電話でお断りしようかと迷ってい
たのですが、約束していたのに悪い
と思いとりあえず行って、お手
伝いができないようなら帰らせて
いただこうと出かけましたが、同
行のボランティア（池田さん、山
田さん）の方がとても良い方だし、
向こうの方達も一生懸命されてい
たので、腰の痛いのを我慢して最
後まで頑張りました。

行って良かったと思って帰ること
ができました。

* テレビや新聞だけでは、とにか
く現地へ行って自分の目で見たい
気持ちは、ずっと持っていました
が都合が付かなくて…センターへ
行って詳しく説明を聞いて数人と
行くことになり、私にでも役に立
つことができるのか、どんな仕事
があるのか心配してましたが、皆
一生懸命で体を動かしておられる
姿、いろいろな状況を見て凄さに
びっくりしました。

この震災の場で『少しでも役に立
てたんだなぁ』と、疲れも全然出
なくて、家族にも話せることがで
きました。



* ボランティアに参加しているとき全く異なる自分を発見する。私達は日々の生活と仕事に追われ、ボランティアに参加する時間などないと思っているが、いざ参加すると全く今まで感じ無かった事を感じ自分自身に心の豊かさが出来てくるように思う。又忙しい中にも奉仕出来た満足感、人生の黄金の時間、大切な心の預金が出来た喜び、又参加したい意欲がわいてくる。私達はいずれ一生を終わる時が来る許された時間の中にどれだけ奉仕活動の時間を作る事が出来たか、その時間数がその人の豊かさ、心の健康を作り出すエネルギーになると確信した。

* 支援活動をする前には、あれもこれもしたら喜ばれるのではないかと思ったが、実際には、個人的に思っていることは、全員の意見一致がなければ出来ないものと実感した。やはり支援活動するグループの結束がゆるいと行動まで響いてくると思われる。した後の気持ちは同じ『人間』同志助け合わなくてはならない弱い者だなと感じたし『してやった』と言う気持ちは全く無かった。

* 新聞。テレビ等を見るにつけて、『私も何か役に立てることをさせ

てほしい』と強い思いをかき立てられて、チャンスを待っていました。被災地へ行き、炊き出し活動をして、『食事を待っておられる方々へ十分ゆきわたるだろうか、おいしく食べていただけるだろうか』等作るのが必死で、自分のおもいと違っているところもありましたが、明るい笑顔にも接し、『共に生きている』ことの実感も味わうことができたと思います。

* 新聞、TV、ニュースで毎日毎日震災の家族のことや倒壊した家、亡くなられた方の事を見て何か私でできることがあればと思っていましたので、お話を聞いた時はすぐに私達も行こうと決めました。また神戸の町がどのようなになったか（半分やじ馬的に）見たいという気持ちもありましたが、現地に行きあまりにも倒壊した家や半倒壊した家テント生活の方ブルーテントのかかった家の多くをみて、お気の毒と心から思いました。早く元の生活になってほしいと祈る思いです。現地に来て、この夕食のボランティアが出来た事の喜びもありました。

* マスメディアを通してあの悲惨な事実を目のあたりにした時は、何かしなくてはと言う気になりました。余りの事の大さに一度きりの支援ボランティアでどれ程のお役に立てたかと思います。



2 現地へ行ってどう感じましたか？

- * 芦屋市の春日町へ行ったので、テレビで見た長田区、灘区の様な光景とは少し違うので救われたがやはり『弱者』の被害が目立った。
- * 倒壊家屋等はテレビ画面を通してみているときとは異なり、圧倒的な迫力で地震の恐ろしさを見せつけられ、亡くなったり被災された方々の無念や恐怖思うと、正視するのものはばかりの思いでした。僅かな力でも、みんなで出し合って、行政も十分な対応をしてほしいと願います。
- * 芦屋まで行くのに2時間かかりますので、現地でお手伝いする時間が少なかったので残念です。
- * 芦屋高校には入り切れない物資が山積みされ、後者の渡り廊下に積まれた女性の生理ナプキンが、荷の一つからこぼれ落ちて汚れたままになっていたりして余りにも物が豊すぎる日本を象徴して居ました。しかしよく見ると校舎といい、ビルと言い、一見そう酷い被害でないように見えるが、近付いたり中に入ると、地面との段差、隙間、ずれ、天井至るところにヒビ割れ、はがれ落ちがあって、まともな建物は一つもないと思われた。まるで怪獣のようにショベルカーが、あちこちのガレキの中で動いて居ました。震災以来一度も休暇がないと言っていた芦屋市職員さん。身体が心配です。
- * 行った時は余り仕事がなく、ボーとしていたので『他にもっと必要なところがあるんじゃないか』と思いました。ボランティアをやりたいたいと思っても必要とされないといけないし…その辺が難しいと思いました。個人対個人のボランティアじゃないので、心が伝わりにくいとおもいました。
- * 駅を降りた途端に異星に、辿り着いたような不思議な感覚。歩き始めて、現実だと見せ付けられた時、足元が震えた。
- * 倒れた家ビル等を目にして、その時の一人一人の恐怖の気持ちが、映像では伝わらない部分が、悲しいくらい分かりました。
- * 余り大変なのにビックリしました。みなさん元気に暮らしておられるかと心配しています。一日も早く元の生活に戻っていただきたいと思います。
- * 避難されている人同志の連帯感（一時の一部分しか見ていないが…）が、とても素晴らしい物に感じた。自分が逆の立場なら、このように前向きでいられるだろうか？



* やっぱり家や道が壊れている惨状を見るとショックでした。

でもそれは「関西には、大きな地震は起きない」と言う、間違った考えよって、作られた弱い都市であり家なのです。

今こそ際がいに強い都市を、つくって行く気ではないだろうか。

文明が発展する限り、都市や住宅は増えて行くと思う。けれどビルをやたら密集させたり、山や木をたくさん削って無理して都市、住宅化すると必ずあとで取り返しのつかないことになると思う。

自然、環境と必ず共存しなくては行けない事柄と、きっちり向き合っている人々は、生きて行かなくては行けないと思いました。

* 芦屋に行ったのですが、木造で築何十年と言う家は、ほとんど崩壊状態で、新しくてちょっと豪邸のような家は、見たところ大丈夫そうだったのが、なんとなく正直言って皮肉に感じました。山手より浜のほうが被害は大きかったです。やっぱりテレビで見るのとは違います。

* 芦屋は、他と比べて被害が少なく済んだように思いますが、それも大変な事です。子供さんやお年よりの方達が気の毒でなりません。

* 車の荷物は、ガレキを積んだのが、多く往來しているのには、びっくり。屋根が落ちてベシャンこ、私の家も地震に遭ったら、こんなになるかしらと空恐ろしくなった。

* 私が行ったのは3月に入りましたが、水道も復旧しておらず通りの家々も崩れた所が多く残っていました。もう、大分落ち着いてるだろうという、私の甘い考えは吹き飛び、現地に行かなければ判らない事がたくさんあると思えました。報道されていることと、現実とのギャップはかなり感じました。

* 考えていた以上に、力仕事が多かったちので戸惑いました。女の人にもできないわけではないけれど、二人以上で力を合わせないと無理だとか、一人でやろうとすると時間が掛かって足手まといになったりすると言う事がありました。物資の仕分け等は、女の人でも十分協力する事ができますが、米や毛布のダンボールを運搬するといったようなちから仕事には、男手が多いほうが、効率的だと思った。



* 新聞、テレビ等で読んだり見たりして、本当に大変なことが起こったと思っていましたが、実際に芦屋に降りて、今にも倒れそうな家、マンションの2階部分が1階になっていたり、余りにそれが多く一瞬言葉を失うショックを受けました。

震災に遭われた方は、どれ程恐怖だったことでしょうか。物資の仕分けやお弁当を各避難所に配るお手伝いをさせていただきましたが、交通事情などもあると思いますが、少しでも早く必要とする方へ、必要な物が届くようお願いしました。芦屋南高校の生徒の明るさは、とても嬉しく思いました。

* 私が芦屋に行ったのは、震災から2か月以上も過ぎた3月の末でしたが、まだ多くの避難されて居る方がいらっしかったです。

家々も傾いたり、取り壊されたり、被害を受けたそのまま手付かずになっているところも多く、改めて地震の凄さを感じました。

もし、私たちが被害者であったならば…と鳥肌が立ちました。

しかし皆さん、力強く生きていこうとしていらっっしゃるので、凄く思いました。

* 私たちが忘れかけている助け合い人と人との繋がりの大切さを、今回の震災で教えてくれたように思います。

* 水道もできるようになっていましたし、普通と変わりなく街も何でも売っていて居てホッとしました。お風呂も旨く組み立ててあって、あそこまでされるのが大変だったろうと感じました。

救済物資の古着を置いてあるところを見て、つぎの当たったズボンがあったので、こんなものを送る人がいるのかとびっくりしました。古着と言っても人様々、感覚が違ふようです。新品同様でも送るのを遠慮していましたのに…。

* もし、自分たちが被災したら…日頃考えもしなかった現実があって、日常最低限心得て置く必要性を、強く感じました。

* 茶の間で見る映像と、目の前で倒れている家屋を見るのでは、心の残像が違います。

* 実際に現地の様子を目の辺りにし、改めてショックを受けましたが、現地の方々が明るくしていらっっしゃるので、少し安心しました。

* 改めて自然の災害の恐ろしさを感じました。現地の方々には不自由な生活の中で、別の意味での強い繋がりが出来たのではないかと思います。前向きに頑張って立ち直られる事と思います。

がんばれ！神戸！！

* 被災した惨状は、想像以上のもの
でした。平穩な日常生活の中では、
ごく当たり前の些細な事でも、被災
者にとっては、非常に大きな心の支
えになった事が、喜んでおられる被
災者の態度から伺い知ることが出来
*

今回のボランティアは被災地の現
場 はありませんので、被災者の生
の声を聞けませんでした。行き帰
りの電車の中から、今だ家屋の傾い
たもの、屋根が壊れビニールシート
がかけられている状態、ビルの崩れ
ている姿、各公園に今もテント生活
をされて居る方を現実に拝見して、
「大変だなあ」という実感を再認識
しました。あの様な災害が、私たち
の地に起こって居たら…と考えると
、その教訓を私たちの地域に生かし
もっと危機管理体制を整え、“救っ
てもらおう”のではなく“救う側に常
に立つ”という、心の準備意識を訓
練しなければならないと感じた。

* テレビで見ているよりも、実際
の被害状況が厳しく、もし、私が
被害を受けていたら、今頃どうし
て居るのだろうか？
何かの形で役に立ちたい。感じま
した。
（その場その時期に合った）が必
要だと痛感した。

* テレビを見ているよりも、実際
の被害状況が厳しく、もし私が被
害を受けて居たら、今頃どうして
いるのだろうか？
何かの形で役に立ちたい！と感じ
ました。

* 現地の子供達が、明るく元気だ
ったので、少し安心しました。

* テレビ新聞報道とは、また違う
雰囲気を感じました。
自然の力の偉大さをしみじみと感
じる。



ボランティア活動を通じて又、その他何でも結構です ので、印象に残っている事は、何ですか？

* 今回のボランティア活動には、幅広い年代の方々が参加されていたのが印象的でした。今までのイメージでいうと、主婦の方や女子学生が大半を占めていたように思われるのですが、今回はサラリーマン風の方々も目立ち、きっとテレビの報道を見て「何かしなくては」と思った方々なんだろうと思いました。思うだけで行動に表わすことができない人が大半だろうに実際に参加しようとした行動力が素晴らしいと思いました。

* 私などは教えるほどしか、活動できませんでしたが、高校生や大学生の方が寝袋持参で何日も、又1カ月、2カ月と生き生きボランティア活動をしていらっしゃるのを見て本当に嬉しく頼もしく思いました。又、被災された方が「今までの平凡な生活がいかに大切であったか、よくわかった」と新聞、テレビで話されていたのが強く残っています。

* 一人だけでは、出来ない事も少々不安があっても沢山の人達の中で自分のやれる事をしていけば小さなものであっても大きなものに感じて頂いたように思いました。

* 並んで食事をもらうのは大変だなあと思うと同時に人にもいろいろな人（少しでも多くもらおうとする人や遠慮しながら持ち帰る人）がいるなあと思いました。

* かたむいている屋根の下で、お店を経営しておられた姿に感動しました。

* 現地に近づく程屋根に青いシートが多くなり、傾きかけた柱、つぶれそうな家、アスファルトのわれ目を目前にすると我が町だったらと思うと背筋がためたくなります。毎日、テレビに写し出される人達を見ている自分がこうしてボランティア活動に参加出来ることの幸せをつくづく感じました。

* 今この場所で、この状態で、又はこの状況で、その人たちが何を望んでいるのか、何をしてもらいたいのか、本当に来てもらって良かった。してもらって良かったと感じてもらえること、おしつけがましくならないこと、「ボランティア」とは……義務ではなく“心”だと言う印象をもちました。

* やはり町の惨情です。帰り道、迷ってしまい、完全にがれきになってしまった商店街を見てしまったのですが、結構ショックでした。

- * ボランティア活動をする私たち自身もっと心の境涯を高めなくては…と感じました。
- * 被害者個々人にとってはお元気に振舞って居られましたがご心境を何うに余りあるものと察せられお慰めの他ありませんでした。家族バラバラの生活の方も居られました。職場を失われたお人もありました。自分ではどうしようもない事だと思います。頼り度いのは行政だと思います。公的地位にある者は勇んで救済の知恵を斜け活力を与えて頂き度いと思います。
- * 被災現場に行って、惨状をまのあたりにして我が身におきかえた場合、非常に深刻な出来事だと痛感致しました。今後復興と、被災された方々が、もとの生活に戻るの、大変なことだと思いました。
- * 何かの役に立ちたいとは、考えていましたが……初めて実行出来る機会があり、参加してよかったですと思っています。
- * ボランティアに関心のある方と、ない方の差が大きいと日頃感じています。(もっと、メディア等を使って、必要性のPRを積極的にして頂きたい。)

- * 若い人のボランティアが大変多い事に感心致しました。日本人の利己主義的と言われている中で、この様に若い方が、奉仕されている姿に日本の将来も見捨てたものではないと強く安心した気持ちになりました。又、小学生ぐらいの方が熱心に声をかけ一生懸命活動している姿に感動していました。その方の写真が翌日の朝日新聞に活躍する子供として紹介されていて驚きました。
- * 打出浜小学校のボランティアに参加したのは3月末、出会った多くの被災者が体育館で不便な生活を送っている事。
- * “援助する人もされる人も同じなんだ”ということ強く感じた。
- * 計画・企画段階、実行当日には、必ずリーダー的存在の人が必要と思われた。
- * 炊出でて、私達は焼そばを作ったのですが、現地の人達に、うどんとか簡単なものが多い中で、焼そばは野菜が多いのでうれしいと言われました。打出浜まで来て喜んでもらえて私もうれしかったです。



* 11日は物質の届け（仮設住宅へ）がいっぱいあってけっこう満足したけど、13日は1日じゅうポーと過ごした。12日も忙しかったとのこと。出掛ける前に一言現地に電話を入れてから行った方がよかったかな……？。

* 災害の時、一番心強いのは、まず近所そしてボランティアの活動だと思いました。

* たった2日、しかも大した事ができなかった自分に対しても、避難している方や他のボランティアの人が対等に接してくれたのが嬉しかった。「ありがとう」の一言も、とっても嬉しかった。

* 現地の方々はとっても明るくて「自分達の街は自らの手で復興させる」という意気込みが伝わってきて、こっちも元気が出てきました。又、私達が行った芦屋南高校の現地スタッフの方は、やさしくて昼ごはんは、救援物資の中から（？）みそ汁や、ごはんをくれました。その他にも、ジュースやおもちをくれました。非常な時態の中でも、人間的なあったかさは忘れていなくて、そんな人を見て、とっても嬉しくて、感動しました。

* もっと近ければ何回でも行ってあげられるのにとおもいます。交通費や時間的にも無理が生じます。

* 今後の若者の支援行動には目を見張った。今の若い者も決して捨てるものではないという心強さ。

* たくさんの職員やボランティアさんが各地から来られていたり、地元の高校生も参加して仕分けやトイレの消毒をしている所を見て、人の力はやさしくて大きいものだと思いました。ボランティアをされている方は全てやさしく見えました。

* ボランティアは若者や主婦層が多いと思っていたのですが（実際多いんですが）私が同行させてもらった方々は2度とも男性がいらっしゃいました。特に印象深いのがもうすぐ70歳になろうかという方でしたが驚くほど元気な方で定年退職後ずっとボランティアをされているとか…。色々な層の方と出会えるものボランティア活動のいい所だと思います。

* 色々な地方の人と知り合いになれた事。

* 食事を配っている時に「ありがとう」や「ご苦労さまです」と声をかけて頂いた時、やってよかったと思いました。

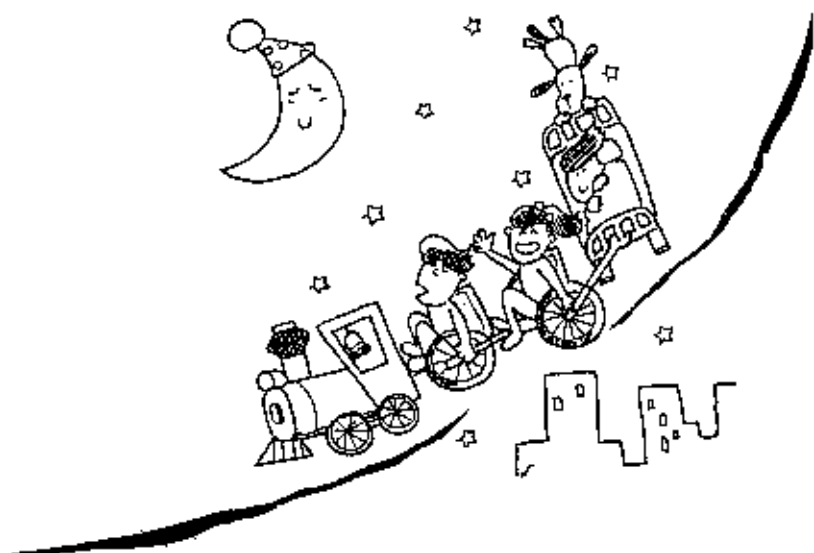


- * 活動は、物質の仕分けをしましたが、物のあまりの多さに日本の飽食ぶりをかいまみた。捨てるぐらいあるなら義援金にして、自由に使いたいものを入手して利用してもらおう方がよっぽど実用性があるとつくづく感じた。市役所の差し入れがやたら多く心がこもってないように思えてならなかった。精神のケアがもっと必要だ。
- * 「弱者」は本当に立ち直れるだろうか。高齢者は今後どんな生活になるだろうか。我が身に置きかえて考えこんでしまった。
- * なかよしクラブの先生に「私はボランティアに参加してもいつも自分が参加して楽しませてもらっているだけで何もしてあげていない気がする」ということをお話ししたら先生は、「それでいいんですよ。仲良くなって友達になってあの子たちの社会が広がったらいんです。いつもボランティアはそういうものだと思います。してあげるというのは上の目線になる。」とおっしゃって下さった事が大変うれしかった。
- * 物質整理に行って古い下着を見て、自分がその立場に立って物を送ったらよいのにと思いました。

- * 物質の仕分け作業中沢山の使用不能品を廃棄処分としたのが残念でした。同時にそのような物質が被災された方々に届かぬよう心して仕分け作業にあたらなければと考えさせられました。若者のボランティアが多かったのが喜ばしく、頼もしくて、この貴重な体験を忘れないで、今後活かして欲しいと思います。
- * いろんな人との出会いがあるのでおもしろい。
- * 現地に3度ほど行ったというIさんと初めての私とで行きましたが、指揮をしてくれる方が当日はおられなくて午前中はピストン輸送で帰って来るワゴン車やトラックに布団や雑貨を積む仕事で車が全部出払った後は何もする事がなく、これでは午後には帰るのかと思っていたら、午後は12階建てのマンションの各部屋に日用品や寝具を運ぶ仕事があり、ギリギリ4時までやってほぼ配り終って帰ったが翌日はさすがに少し足にみが入って伸びていた。
- * いろんな方達と逢えて教えてもらうことがある。まだまだ勉強不足だなあと反省することができ心が豊かになります。若い方達と同じ仕事ができるうれしい。

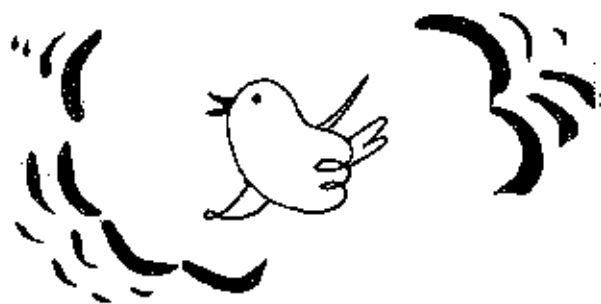
* 当日は高速道路はかなり空いていましてこれは早過ぎるかと思いましたが高速から降りる頃から一寸きざみになり現地には、丁度良い時間でした。気象状況がとても厳しく雨が降ったり日照があったり風があったり後は運は天に任せて天幕を張ったが途中でも激しい雨、もしお客さんが来なかったらどうしましょう。携帯マイクで放送しながら回らなければとの声も。その内に電番組の本隊が到着。休む間もなく準備しながら腰を上げて辺りを見ると今日は何のメニューかなあーと時折見に来られる方。定刻前より焼そばを始める。一生懸命によそ見する間などとても無い長い列である。大体行き渡って終わった。何とも言えない気持ちのよい疲労である。今までに感じた事のないさわやかな疲労であった。

* 日本人の老人に対するあつかい方、病気になる時の過ごし方、スウェーデンの方の老人に対するあつかい方、また老人の方の受け入れ方の違い。がんの方でもおじくになりになる前日まで朝になればおきて、パジャマをきがえ、ふだん着にきがえる、顔を自分で洗い、自分でできる事は、全力をつくし、自分でする、また、ボランティアの人も手を出す時と手を出さない時をしっかりと把握している。決して甘えることなく、生きておられる。寝かしきりにさせていらっしやらない、早く日本もそのように一人一人がしっかりと生きる生きている姿勢をもった介護が出きたらいいなあと思った。



4 自分自身のボランティア活動をこれから、どう進めて いきたいと思いますか？（地域ボランティアとして）

- * 地域活動にまとまりがあり、活動する事に不安なくやっているとしたいと思います。
- * できることから少しずつお手伝いしていきたいとと思います。
- * 他人の事ではなく、自分の事として取らえて行きたい。たとえ道のゴミ一つ拾うにしても自分の事として。
- * 勤めを持っている人間にとっては、十分参加できないが、できる範囲内で活動に参加したい。
- * 現在老人ホームに月1回参加しておりますが、自分にできることは進んでほしい。
- * 学区福祉委員の一員としては、画期的な事業や活動は、できないとしても共存する社会を、また地域を良くして行こうとする気持ちは皆持ち合わせています。人助けはボランティアの精神と捉え参加を呼びかけて行きたい。
- * 地域でも世代交流のお付き合いができればよいと思うが、なかなか同世代とのお付き合いはあっても年の離れた方（老若）も付き合いにくいので、いろいろな事に参加し、近隣の方を知る事も大切かと思う。
- * 学区福祉委員会を通じ、自分自身でできることを一つ一つ積み重ねて行きます。
- * 人が少なく何かにつけて用事の多い地域であり、目立って大きな事をしようとするのは大変である。日常気付いた事を、無理なくできるのが望ましいと思います。
- * 自分から進んで一步が出せないの
で、与えられた事を精一杯すること。
- * 老人福祉
- * ほんの少しの力をなにか役立てられればいいと思う。また役てたい
- * 体の不自由な独居老人の声かけ、配食等、車椅子の人達の手助け。
- * 身近なボランティアに機会があればどんな事でも参加したく考えてます。
- * 福祉委員としていろんなことに参加し進んで活動していきたい。
- * 福祉委員をしようと思う人を、多くみつけていきたい。地域の人に福祉委員の必要性を自覚してもらうよう努めたい。



- * お世話にならなければならない方の事を、自分に引き換えて考えたら、健康に恵まれて、人のお世話ができること、または人が喜んで貰える事をできる方があえてしない方は社会的罪悪であると思う。
- * 地域に心の通ったイベント企画して、大勢のスタッフで成功させて行く。この事によりお互いの成功感を味わい一体感を作り町全体の結束力を付けてゆく。それには行事の中に「愛」が入る努力。つまりその人の働く場所に適材適所を見つけ行動して頂く事が大切と感じます。
- * 地域の状態、地域の人達という身近なところで行うものは、すべて自分に反応してくる様な気がします。ボランティアを始める第一歩の役割を果たすと思います。
- * ボランティア教室で少々学びました。ボランティアとしては、震災Vが初めてです。これからもいろいろなVに参加して自分にあうVを探したいと思います。
- * 普段より盲人の方を主にガイドヘルパー、URV、宅訪サービス（朗読）をしてきているが、時間の許す限り、役に立てる事を自分の体力、能力に見合った範囲でやっていきたい。
- * 自分の出来ることを長く継続していきたい。決して気負わず、楽しみながらできたらと思います。
- * 大きい活動より小さくても現実味のある活動を進めたい。
- * 近隣との日常的な連絡、さりげない助け合い。長続きをするために重荷にならないお付合いを。
- * 一つの事に限定せず、様々な事に参加していきたい。老人の方との交流等。
- * 震災ボランティアから、地域ボランティアに移行したいと考えます。長く続けたいので、無理のない活動を見つけたいと思います。
- * 何かしたいと思いますが、ボランティア活動を特に自分の住んでいる地域で…と限定して考えてないので、良く分かりません。
- * 今、訪問している家庭に引き続き行きたいと思います。
- * なるべくいろんな事を経験してみたい。
- * 音声訳、ボランティアを続けます。URVの仲間達に助けられながら
- * 地元のボランティアで訪問ボランティアをしてみたいです。
- * 時間があれば、限りなく全力で。
- * 大学、仕事、Vの3ツが無理なく両立していけるように参加していきたい。



* 例え気持ちが一時的にたるんだとしても切れてしまうことのない様に続けていきたい。

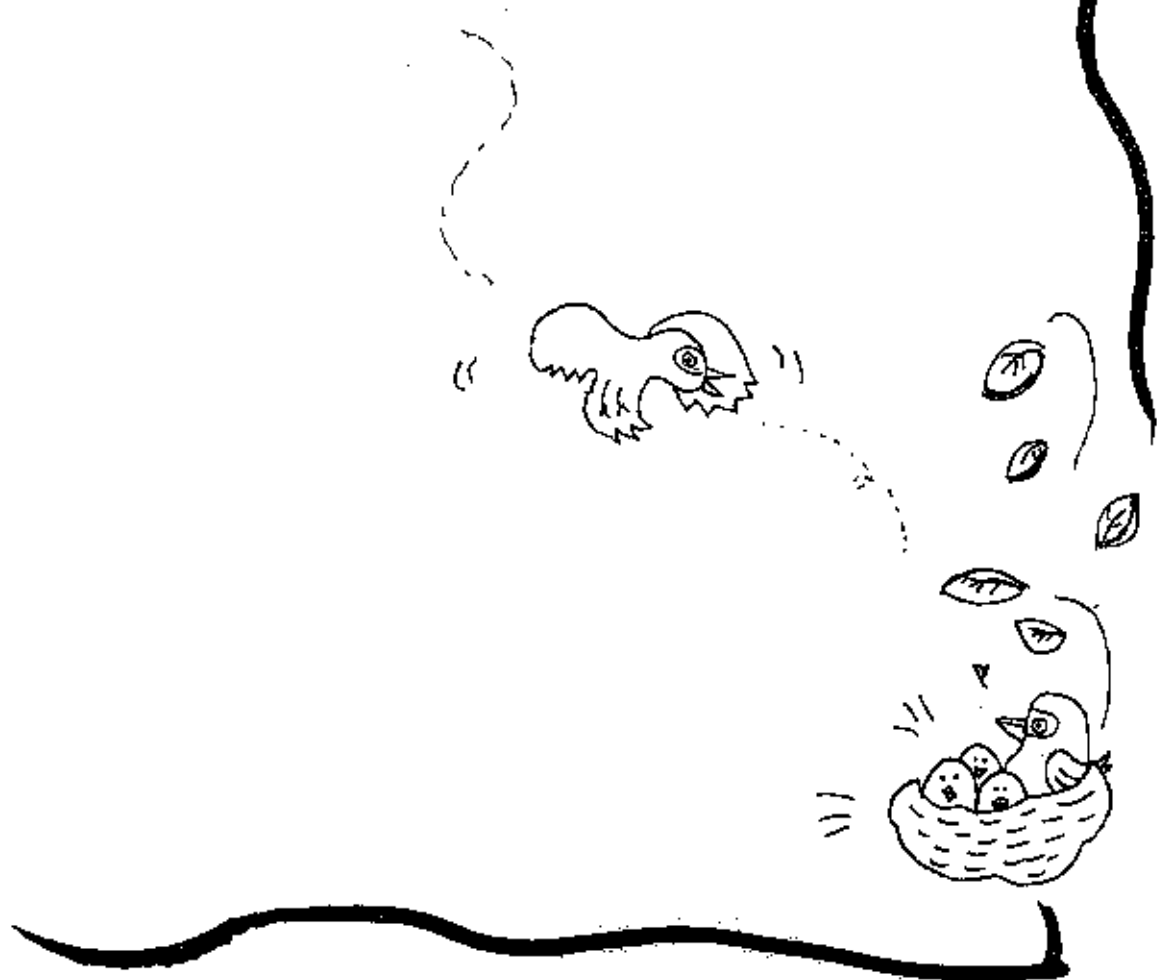
* 今、手話を学びたいなと思います。障害者の方の何か役に立てればいいなと思っています。

* ボランティアとしてのある程度の基礎知識が必要だと思います。従って「行動」を通じてそういう機会への参加を心掛けたい。

* 精神障害者の作業所や、病院でのボランティアをしているので今後も続けたい。

* 気軽に参加したい。難しいのはできないかも知れないが、自分自身を磨きたい。

* 初めの一步を踏み出したばかりですが、あせらず力まず、小さい力ですが、細く長く、障害を持った方や、高齢者の方と心を通わせる様に慣れればと思います。



5 何でも思うことをどうぞ！

- * この大震災を通じて、“ボランティア”がクローズアップされて、これからのボランティアの方向性がとっても注目されます。みんなが気軽に参加できるようになってほしいと思うし、行政等もどんどんサポートするべきです。宇治の社協の今回のボランティアの取り組みはとっても良かったと思うし、これからも地域のボランティアを広めて行って欲しいです。社協のスタッフの皆さんお疲れ様でした。
- * 震災は、何時我が身に降り懸かるかも知れぬので、普段から心掛けて、非常持ち出し、最低の身の回りの物をまとめておく。食料品、水、燃料等最小限の物を取り出しやすい物置などを確保。
これだけのことをしたら後は落ち着いた行動を取りたい。
- * 数少ないボランティア体験の中でも、出会いや発見、教えを受けることなどがたくさんあって、心の糧となることを嬉しく感じています。
- * 被災者の方とにかく頑張っしてほしい。
- * ボランティアが現地に向かって活動するのも良いのですが、水もでない、ガスも出ない所で多勢で生活するのも大変です。宇治にも他の地方にもコミュニティセンター、集会所、福祉会館等があり、お風呂のあるところもあります。仕事を持たれている方は、遠い所で生活するのは無理でしょうが、お年寄り、障害者など順次被災地から連れ出し、そう言ったところで短期でも生活してもらって、そこへボランティアで、その地域の人のいてもらおうと言うことができなかつたのでしょうか？
そうすればボランティアの方も、通いでできて楽ですし、衰弱されるお年寄りもなかったと思います。周りには医院もいっぱいあるのですから、せめてライフラインが通じるまで…と思います。
- * 出してあげれる力を、必要としてくれる人が居て、“何やこんな事でも お役にたてるんか”と自分自身のことを見直しできて、ボランティアっていうのはやって見たら、楽しくて、暖かくて良いなあ…。
カッコイイことでも、面倒なことでも、怖い事でもないんだってことにすぐ気づかされるよ。



- * 土、日しか日がないので、なかなかお手伝いする機会がなく、やっぱり専業主婦でないとダメなのかな…何て思うこともあります。マイペースで気長にやって行きたいと思います。
- * ボランティアに対して、自分なりのしっかりした考えが持てるようになりたいと思う。
- * 衣類の分類のお手伝いをしたのですが、新品や新しいな…と思う品物もありますが、着古したものや、間に合わないと思われるような品物がたくさんありました。幾ら困っておられると言っても失礼だなと感じました。「家に置いておくのは邪魔になる」感覚で送っている人もあるんじゃないかと感じられ淋しい気持ちになりました。
- * 時間の許す限り参加して、皆で楽しい時が過ごせたら…。相手の喜ばれる顔が素敵で、視野を広めて行きたい。自分自身がしてもらうより、させてもらえる健康な体を使わなくては勿体ない。
- * これからのボランティア活動の在り方として、個々バラバラの形で行うのではなく、特に今回の大震災等、広域大規模な援助を必要とする場合は、組織的に効率的に活動できるような制度的な整備が必要だと思います。

- * 救援物資の運搬は、芦屋市の職員さんの指示にしたがってやっていました。新聞を見て思ったことですが、「ボランティア活動は、ボランティア側が何をしていたら良いかを前もって予知していくものだ」の記事を見て、一日だけではニーズを探りにくい物だと思いました。
- * 震災をきっかけに、ボランティアセンターと言う団体に登録してのボランティア活動をしました。今までは知り合いの病院や、近くの作業所と言う限られた範囲での活動だったので、こういうやり方もあるんだなと思いました。今後は地元（京都市内在住なので）のボランティアセンターに登録して、地域での活動を中心に行うつもりです。
- * ボランティア講座を受講し、何か自分にできる事はないかしら、何かしたいと強く思いスタートラインに立ったばかり、これから多くの方のお話を聞いたり勉強したり学んでいきたいと思っています。
- * 自分の出来る事は積極的に、出来ない事は無理をしないようにしようと思います。



- * ボランティア活動に対して、国、地方行政はもう少し金銭面で、バックアップが欲しい。(予算を気にしながらの活動はしにくい)
- * 今回の震災が起こった時に、テレビなどで報道された被災地の様子などを見ていて『私にできることはないだろうか』とすぐに考えましたが、テレビなどでのボランティアの募集は、「何か資格のある人でないと駄目なのか」「どの様な日程で参加するのか」などと言った疑問を抱く物ばかりで、実際に特に資格のない私が、参加するにはどうしたら良いかと言う事がわかりませんでした。ところが、このとき丁度、そのボランティアの説明会が宇治社協で行われると言う事なので参加したところ、すでに参加しやすいシステムが確立されていたので、すぐに登録し、私も微力ながら参加することができました。これもセンターの方々の迅速な行動のお陰であると感謝しています。



- * 『ボランティア』の意味を考えた時、こうでなくてはとか、つい難しく考えてしまいがちだったと思うのですが、(自分でも生活の中で)、私達は毎日老いた両親を見ていて、これも順送りのボランティアなんだ、自分に対して嬉しい事、楽しい事、相手もやっぱり喜んでくれる、いっしょになっていたみのわかる『ボランティア』でありたいと思う。
- * 皆さん、懸命にがんばってらっしゃるので、自分を反省するばかりです。余りお力になれなかったので、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。
- * 今回、神戸に御一緒させていただいた方々と、近しくいろいろお話しする事が出来、良い出会いを持てました。地域の方々が、特別なことをするのでなく、自分の出来る範囲での協力という、ボランティア活動に参加してほしいです。
- * 今回の大震災は、私達の想像を絶したので、すべて後手後手と回った。「関西は大地震は来ない」の神話が崩れた事で、今後行政的に、災害に強い町づくりをやってほしい。今回は、ボランティアは、良い体験ができた。

* ボランティアを行う側にも、受ける側にも守らなければならないルールがあると思います。両方の立場に立った時、最も良く分かるのかも知れません。ボランティアということが、特別なものでなく、ごく当たり前の事ととらえられるようになれば…と思います。

* ボランティアを必要とする人が、マナー化せずに、自活力をつけてほしい。(障害を持つ人は別として)

* 5月7日誕生、72歳の老骨にムチ打って頑張っています。率先するのは、遠慮勝ちですが、時と場合によっては、全力投球で戦います。

「なかよしクラブハウス」との交流のきっかけとなった
京都新聞と神戸新聞の合同企画『生きる』の
記事を書かされた 塚本さんより頂いたメッセージ

初めて芦屋市の共同作業所「なかよしクラブハウス」を取材に訪れたのは、震災からまだ間もない2月初めのこと。グチャッと天井と床がくっついた「家」の前に、川崎先生とペコちゃんがいた。その横に「これから何をしたらいいの」と、独り言をずっと言い続ける高橋君がいて、2人がそっと見守っていた。

それから3ヶ月。みんなに会いにいくと、元気になった仲間たちが笑顔で迎えてくれた。新しい「家」にもすっかり慣れ、一步また一步と日常を取り戻しているようで安心した。

確かに、地震は作業所の建物を全壊させるほどの凄い力だった。でも、「なかよし」のみんなの絆はびくともしなかった。それどころか、震災を機に新しい仲間たちとの交流が芽生えたという。そう、宇治市のみなさんとの輪。宇治市と芦屋市は地理的には決して近くはない。しかし、互いを思いやることで、心の距離はいくらだって近くなれる。

「人間っていいなあ」。阪神大震災という惨状のなかで見せた、みなさんの交流という芽を大地に根付かせて下さい。

京都新聞社社会部・塚本 宏

宇治市ひとり暮らし老人の会

1995年3月1日

北淡町長 小久保正雄 様

あまりにも突然の地震災害に被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。現在宇治市には約1300人の独居老人が居りまして、そのうち400人が会を組織し、お互いに励まし合って暮らしてあります。地震発生直後より、震災の時を思い起し、自分の事のように感じながらも、私共にはすぐかけつけてお手伝いすることも出来ずやまもみしております。1月19日に同封の記事を読みました。その後のマスコミ報道によれば、この災害が高令者に及ぼす影響は日毎に増大いたしております。皆地で幸い素早い対応によって全員が間もなく仮設住宅に移されると聞いておりますが、今後の事を考えますと、ひとり暮らしの方々、高令者世帯の方々にはケアー付集合住宅がどうしても必要だと思えます。同封いたしましたお金はほんの少しですが会員一同で集めました。同じ境遇にある方々の将来の生活の一助にお用いいただければ幸いです。尚ボランティア青梅会、西小倉シルバークラス、料理教室の方々も賛同してくださいました。

1ヶ月が過ぎましたが、ご苦勞はまだまだこれからも続きます。お体にはくれぐれもお気をつけてお仕事をされますようにお祈りいたしております。

宇治市ひとり暮らし老人の会 会長 吉田たけ

北淡町社会福祉協議会よりお礼状が届きました。

(前略) この度は本当にありがとうございました。どうぞひと
り暮らし老人の会の皆様、首梅会、シルバーユース料理
教室の皆様方にも重々よろしくお伝え下さいますよう
お願い申し上げます。

この様な皆々様からの物心両面にわたるご支援に
応えるべく、私達町民は一日も遅く復興をめぐして
がんばっています。どうぞ今後ともよろしくご支援を
お願い申し上げます。意を尽せません。お礼といたします。(後略)

社会福祉法人北淡町社会福祉協議会

事務局長 城本正守

高齢者ボランティア教室での講演の後、ダンボールの募金箱を持ち。

募金活動に協力下さった永六輔氏(宇治市文化センターにて)



茶だんご

号

1995.5.30 発行

茶だんご 機関紙部

手話サークル「茶だんご」の機関紙より

手話通訳ボランティア体験記を抜粋させていただきました。

阪神淡路大震災 ボランティア体験記

3R
(30分)

あの地震から4月以上たつたが、まだ都心から心復興のペースが
目につく。口上だけでも大震災の記憶が残り、心でつづける。
今回から、手話ボランティアとして神戸へ行かれた北村さんに
体験記を書いてもらいました。私達も何かできることをしたいですね。

ラウトワーク
エエ
ボウ



2月18日(土)朝6:00起床、8:00大阪駅集合

馬はボランティアVだから、ホテル似たところ
まで下ろす。手話V(ボランティア)軍団を率や、

探方は簡単、手話も使っている。たぶんろう者が
かいても手話を便利に感じている。

京都南部からは、北村寛子氏、田辺の

藤永氏が参加。千葉県、岐阜県、和歌山県

遠くのVが集まってくる。この時点で少く

とも私は疲れているのである。たぶん北村

寛子氏も疲れているのである。

次回はいつか神戸へ...

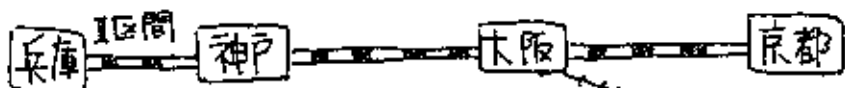
宇治市の京都府手話専任員12人も、手話ボランティア
として被災地へ行きました。

ボウタイア
体験記

ラウンド2

噴水前で集合している他のV軍団は、どくどくと神戸へ移動し始めている。私達手話V軍団はとらりと案内人が来ず、どこへ行ったら良いやらわからない。大阪のVが、兵庫ろうあセンターへTEL。藤永氏が相馬氏にTELして??? とにかくろうあセンターまで行くことにする。

当時は JR・阪神・阪急もダメ。地下鉄で大阪港、大阪港より船でハーバーランド、ハーバーランドから JR神戸駅まで歩いて JR兵庫駅へ。センターは駅から近い。



船の中は人・人・人。神戸が近くなると船内にはいた人が、外に出る。遠くから見る分には特に変わりなかった。ハーバーランドに着く。岸辺の倉庫は、海の中。港はがたがた。ダイエーの大きな看板がおり落ちてきている。立体駐車場は3階が崩れ落ちている。神戸駅も人・人・人。流石ながら抱き合っている人、悪服に花を持っている人もいる。神戸駅から兵庫駅までの道中は、木々やビルが崩れ、民家も崩れ、もう、ぐちゃぐちゃ、ビルが崩れかかっている。"危ないなあ。"なんてとこで走りかかると、藤永氏と話す。

センター到着。センターはJRの高架の下にある。前はママチャリでいっぱい。若いろうあ者のVが働いている。到着12:30すぎの昼食。昼食は大阪駅で買ったおにぎりとお茶のお茶2人分。重いはずだが北村愛子氏のおも入っている。自分で持つ。部屋は人・人・人。奥戸さんがいた。性しろうである。豚汁をもらう。"あー"と一息。

行動隊のメンバー発表。地元のろうあ青年、京都のおばちゃん、聴音センターの少女、そして北村愛子氏。総勢5人。行程先は難題。



阪神淡路大震災ボランティア体験記



難山側班と10人で出発。私たちは、海側班。
 ろうあ者の皆否確認対象者は6名。避難場所と名簿を
 時にもらっている。把握把握。
 ママチャリで東海道線沿に。道なき道を40分くらい。崩
 山かけのビルの前。自然にスピードがあがる。地震。
 災害? ゴジラ上陸のよみに思える。
 ○○小学校。ここに1名。理科室に
 いると受付が教えてもらう。部屋の
 中は布団が一面にひかいている。
 一番奥のおじいちゃん。難聴者。
 おばあちゃん。健康者。リハビリ証
 明の手紙もできています。借家半壊。
 とばかりでし人懐けていたおばあちゃん
 さんが。次は私の番と起きて座る。
 待たはる。「おばあちゃん。がん
 ばってや」一声かけて次の避難所へ。
 ○○中学校。2名。避難名簿を見ても名前がない。受付の
 担当者深層してもらう。家族は見つかたが。本人は入院
 中。難聴者でみる。もう1人は不在。ろうあセンターの
 じょうを渡してもらうことにする。歯科治療バスが4日間、
 ここに診療をしている。情報収集、あとにセンターに報告
 する。



2ヶ所の避難者を巡り、与人が全員気づいたことがあり
 ます。「私たちは手話ボランティアだ。ドカドカドカと部屋
 に入るのはやめよう!と、自然に決めた。避難所生活が
 1ヶ月近く、みんな疲れてきている。

××小学校へ向かう途中。1人のおばあちゃんが。ゼッケ
 ンを見て、手話で話しかけてくる。私も手話で生活状況を
 尋ねる。私もおばあちゃんも声かぶっている。健康者である。
 おばあちゃんにもじょうを渡し協力をお願いする。「がんバツ
 ヤ」の一言。少し元気が出てくる。

××小学校。2班に分かれ。訪問。私の班は対象者が確
 認できず。もう1つの班はバツチリ!! 生活の大変さなどを
 聴き、色々話をした。残り1名。○△幼稚園へ。
 実家に帰っている。のこと。

せーせーセンターへ帰ろう。途中。お巡りセンが自転車を
 かついで階段を登ってくれた。

「ぼくらは手話できないから。ここらりば手伝わして
 もらうよ」関東弁。お互いごころうせん。PM6:30。街の
 あかりを見ながら神戸をあとにし京都へ。

震災サポーター

宇治・三室戸ふぁみりー

活動の軌跡

より



17日の地震の日、朝からずっとテレビの前を離れられませんでした。これまでにない程の被害の大きさに何かできないかと思い、とりあえず翌日に義援金と毛布を郵便局から送りました。

2・3日後、知り合いの教師と話しているなかで、「うちの高校の生徒会で何か取り組めないか」とその人が言いますので「高校生が義援金を集めるといっても限界がある。高校生にしかないものと言ったら時間と行動力だから、人海戦術で救援物資集めをしたらどうか」と話しました。そして、『よく考えたらそれなら個人でもできるのではないか』と思いついたわけです。さっそくピラを刷って近所にまきました。その翌日から協力するとの電話が何件もあり、人が人を呼んで《震災サポーター 宇治・三室戸ふぁみりー》ができたのです。

正直に言いますと、私自身は1月末に集まった物資を、2月に仮設住宅が出来たらそこに届けて終わりという気持ちでいたのです。しかし、現地を訪れて、被害のあまりにもひどいことに驚いたメンバーらの「まだまだ困ってる人がいる。また行きましょう」の声に引っぱられてここまで来ました。わたしが明屋町に越してきたのは一昨年で、ほとんど近所とのつながりはなかったため、今回のメンバーもこの活動で初めて顔を合せた人たちばかりでしたが、本当に人が集まって何かをやろうとしたときのエネルギーの大きさに感動しました。

この活動を通して多くの人たちと出会いました。誰もが「この震災の報に接して、何か手助けをしたいという気持ちはあったが、何をすればいいのかわからなかった」とおっしゃってました。この活動を通して「個人の集まりもこれだけのことができる」ということが示せたことはとても大きなことだったと思います。今後、このような災害が二度と起きないことを祈っていますが、もしまた不幸にしてどこかで災害が起きたとき、私たちの今回の経験がきっと生きるという思いで、この「まとめ」を作っています。

1995年8月

村西 正良



宇治・三室戸ふぁみりーの
まとめの冊子「活動の軌跡」は
社会福祉協議会に置いて
あります。

三活動に参加されたメンバーの思い

〈三活動の軌跡Ⅱ〉

□ 毎日、何か采みに出来る事が無いだろうか
 とい掛けていた折に、「ナベ」の宅配便の
 救援活動が身近で続けられているのを
 知り、最終便に参加させて頂きました(中略)
 一人のお年寄りに「二人なら良いのではか
 お金は払わなくて良いのですか…」と問いかけ
 られて、思わず「よかたら、この枕を持っていて
 下さい。」と云ってしまいました。
 いろんな形で救援活動に参加される人々を
 決して、善い、押しつけてはいないのですが、
 このように謙虚に、いかに喜んで頂ける
 ひとときに出会って事に、采み自身も感謝
 したいと思えます。(Tさん)

□ 若い人たち。

若い人たちのボランティアでの三活動
 ぶりにはマスコミの話題になつて
 このグループに参加した若い人たちは
 実によく働いて(中略)
 困っている人たちを見て、行動を促した
 彼らが頼もしいところをもう一歩進めて、
 政治にも目を向けてほしい
 そうしたら、選挙区所で交絡される
 お礼があなたにさくなくなるかも知れない
 (E.M.)

□ 「ボランティア」という言葉より、

「助け合い」という言葉の方が
 しっくりくるような感じがしました(中略)
 (Hさん)

阪神大震災の被災地へ生活用品を送ろう

震災サポーター
 宇治・三笠ふふりー

なべがま宅配便

なべ・食器を
 集めています



わたしたちは、神戸の震災住宅に食器やなべなどの生活用品をおくる活動をして
 いる「震災サポーター 宇治・三笠ふふりー」というボランティアグループです。
 地震が発生した直後から生活用品を集めはじめ、これまで三次にわたり、神戸・
 東灘区へ運んで手渡し活動をしています。次週、4月29日(土)にまた物資を
 運っていく予定をしています。
 つぎましては、みなさんの自宅の押し入れに眠っているなべ・食器などがごい
 たら、ご提供いただけませんか。下記の連絡先までお電話ください。こ
 ろから取りに伺うか、ご送付でしたら持ってきていただけるとうれしく思います。
 ご協力をお願いします。

集めている物品(原則として未使用のものに限ります)
 なべ フライパン 食器 おたま 箸 スプーン フォーク ナップ
 ポット 紙皿 花紙 シーツ ナイフ ふせん その他

※こちらまで持って来て下さる場合は、必ず必ずお名前とご住所の詳しい住所を
 4月22日(土)午後2時から



京都新聞 山城版
 1995.4.14
被災地に台所用品を
 宇治のボランティア提供、協力者募る

阪神大震災の被災地の仮
 設住宅へ食器用品を送る活
 動を続けている宇治市のボ
 ランティアグループ「震災
 サポーター 宇治・三笠
 ふふりー」(宇治市東区
 は、生活用品の提供や協
 力を募っている。二十九日
 に「なべがま」宅配便とし
 て届ける。
 向グループは、町立助所
 被災者に食料調理を手運
 ぶグループの人たち
 (佐藤正典氏)

西にれたピラ



高校の村岡正典校長さんの
 呼びかけで二月下旬に結成
 された、倉持尚、吉崎、大
 学生等十一人などから、而
 町明里町の人々とが食器用
 品を提供するなどの協力を
 している。これは三回の
 宅配便は、神戸市東灘区
 の仮設住宅で「震災サポー
 ト」を聞き、なべ、かま、
 食器など計約三、四百個
 たちを手配した。
 村岡校長は「被災地に、
 った経験から、今は被災
 者が食器用品を頼として
 いる」と実感、仮設住宅の
 第三次入居が十九日に
 開始され、食器用品などが
 新たに必要とならざるや
 びら、なべ、フライパン、
 フライパンと調理器具など
 が、必要なた物品の宅配を
 提供したい」と話している。
 活動の参加希望や物品の
 提供の問い合わせは、村岡
 代表0794-410301

・被災地からのイタリ・

拝啓 啓蛰を迎え、自然界は着実に春がめぐってきました。やわらかな
陽光をうけてムスカリが芽をもちあげ、梅の香りに誘われるように
鶯が春一番を告げようと喉をころがす須磨の山里です。

阪神大震災から一か月余りが過ぎました。ドーンと地底を揺るがす
音とともに何か大変な事が起きたのだとしか思えない午前5時45分
でした。家はミキサーにかけられたようにうなりながら私たちを恐怖の
どん底へ突き落としました。立つ事もできずに、ただ家族の名を呼び
無事を確認することしかできませんでした。一瞬、死が脳裏をかすめ
ました。気がついたときには、周囲のものは倒れ、中味が飛び出し壊れ
難破船のようでした。空は、イラク油田の爆発時のように異様に黒く
世紀末を思わせる不気味な不安を抱かせました。テレビが映らず、地震
だと思いながらも、それ以上の事態が起きているという想像をするしか
なく、携帯ラジオでやっと震災の全容を知る事ができました。

ドーンと地底が鳴動し、余震が続き、足の震えや体がワナワナする
のを止めることが暫くできない状態でした。幸い建物に損傷はなかった
のですが、とにかく足の踏み場もない部屋のかたづけが、その日の昼頃
まで続き、そのうち断水が追い討ちをかけてきました。

歯も顔も洗えない日が5日間続き、食べることに興味もなくなり、
呆然と日が過ぎていきました。水のない生活の苦しみ（‘午後の紅茶’
の缶を食後に1㎝程度飲むだけ…水洗トイレの状態を保つため、できる
だけ飲食せずに凌ぐ）は、あまりにも惨めでした。食器類はラップで
覆って食べ物をのせ、ままごとのような食生活を余儀なくされました。
断水後3日目、もう明日まで水がもたないと暗い気持ちになっていた時
突然、岡山の友人がワゴン車に水を入れたポリタンクを積み、おにぎり
を持ち救援に来てくれました。玄関先に立つ、その姿に嬉しさと仏様
を見る想いで心の中で手をあわせました。そして、さらに2日後、枚方の
友人が電車を乗り継ぎ、山を3時間歩き、ペットボトルを段ボール箱に
詰め、トイレットペーパーやティッシュペーパーを積み、キャスターを
ひいて来てくれました。

京都の友人からは、これまた、ワゴン車でお風呂の水と食料をお運び頂くなど、友情の熱い想いに胸をつまらせようでした。

こうした友人たちのご親切は子どもたちの心にも深く深く刻みこまれたようです。この上ない心の贈り物でした。そして、私たちを日々、励ましていただいた遠方からのお電話の数々、心からお礼申し上げます。

永い間、テレビを見ることも、新聞を読むことも嫌な日が、続いていましたが、今こうして筆をとる元気も出て、仕事にも気が入るようになりました。ライフラインも全て復旧し、生活面は何不自由なく順調ですが、交通機関の全面復旧は8月末まで望めず、陸の孤島です。子どもたち2人は三宮まで被災地の中を歩きながら通勤していますが、私は大阪への経路が3時間を要す状態です。

一つ嬉しいことは、神戸の被災地に見た被災者の団結と頑張り、全国の若者ボランティアの素晴らしい力は、次の時代を信じさせてくれるに十分なものを私たちに与えてくれました。白がよく似合う神戸に移り住み（まさか活断層の上とは夢々知らずに）12年、この街が再び不死鳥の如く蘇ることを念じて、復興への長い道程を辛抱強く頑張ります。

皆様から頂戴した心の贈り物を我が家の大切な宝として忘れることなく社会に還元して参る所存でございます。

余震の起こる確率は本震後2カ月以内といわれます。「備えあれば憂いなし」は震度6には通用しません。気を緩めることなく生活を続けます。

皆様には、季節の移り目、ご健康にご留意されますように。

敬 具

1995年3月6日

猪俣 寛彦
家族 一同



とんがり文庫 ボランの運動



とんがり文庫 ボランでは、神戸市の高校生から届いた訴え(下記参照)について、みんなでお考え。

『机のひき出しにねかしている学用品を持ち帰ろう』という運動を起しました。



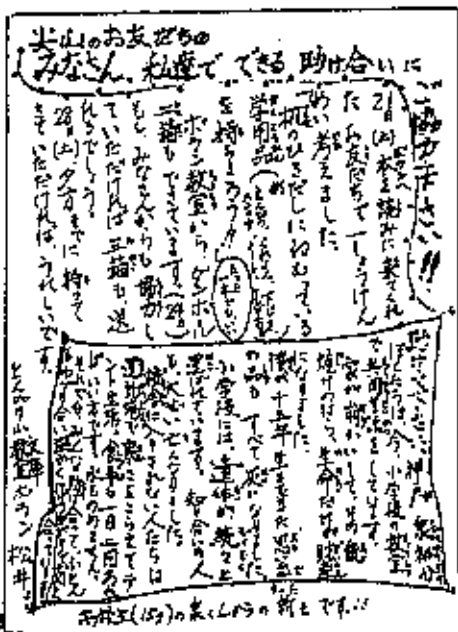
このピラを見て、筆記用具、本、ノート類、おせん、ハンカチ衣類がどさどさとんがり文庫に届けられました。

その数 ダボール箱10箱分!

みんなのあたたかい気持ちで、まて 神戸のお友達に届いていることでしょう。



拡大 ↓



神戸市の高校生 泉裕介 さんからの訴えです。

ぼくたちは、今、小学校の教室で、共同生活をしています。

家が崩壊して、その後、焼けたのは、生命だけが財産

になりましに、僕が十五年生きてきた思い出

の品もすべて灰になりました。

小学校には、遺体が続々と運ばれています。知り合いの人

も、大ぜい亡くなりました。

校舎に入りきれない人たちは、運動場で、異さをこらえてテ

ント生活。食事も一日二回あれ

ばい方です。水ものめません。それでも、みんな助け合っています。みんな、心から助け合っています。

—あせらずに つなごう “人・もの・こころ” 今できることから—

I 活動内容

- ①ボランティアの情報収集（情報をおよせください）
- ②ボランティア活動情報ボード（会館1Fに設置）にてボランティア活動を掲示
- ③ボランティア派遣のコーディネート
- ④個々のボランティアの相談、対応

II 相談日

毎週 火と金曜日 午前10時～午後8時
（支援センターの事務局が常駐しています）
この日以外は社協が窓口になります

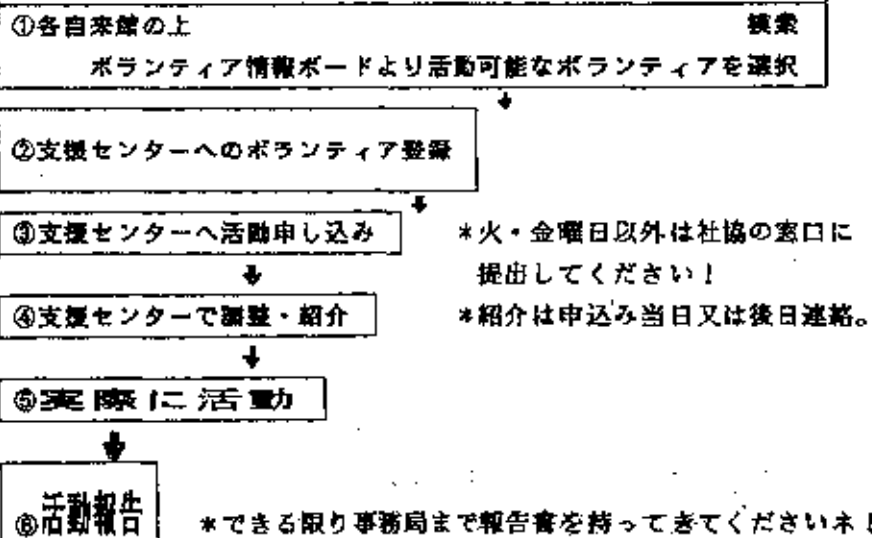
III 事務所

宇治市総合福祉会館3F
宇治市社会福祉協議会
宇治ボランティア活動センター内 阪神大震災支援センター
☎0774-24-4445（直通）
☎0774-22-5650（社協）
☎0774-22-5654



IV 「ボランティアをしたい」方へ参加の方法

ここからボランティア活動は始まっています！



V 保険について

- ① ボランティア保険（300円・95/3末まで有効）
活動が決まった方については、社協負担で加入します。
- ② 阪神大震災緊急支援活動保険（保険料については別紙）
希望の方は申込みください。手続きは前日までに社協で行います。

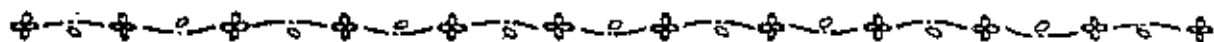


VI 登録上の注意事項

- ① 登録をしていただいても、現地の状況によって、活動までに待機が必要になることもあります。
- ② ボランティア活動の変更があるかもしれませんので、各自来館の上情報の収集に努めてください。
- ③ 活動上、困ったこと・相談したいことがあれば気軽にご相談ください。

VII 現地での活動上の注意事項

- ① 自分の行動に責任をもってください。
 - ・体調を整えて活動に参加してください。
 - ・活動にあたっての、交通費・食事・飲み水は各自負担です。
持ち物として、軍手・帽子・ホツカロンなどがあると便利です。
- ② 現地の状況によって活動内容が変更することがあります。
現地では、現地の方の指示に従ってください。



♪ ボランティアへのほっとスペース - サロンを設けます - ♪

活動の後に、今私たちが生活している中での気持ちとずいぶん差が生じる場合もあります。そのために活動の状況や感じたことなどを気軽におしゃべりでき、個人の体験を共有できる場が大切だと思っています。自分の気持ちを確認する場としてご利用ください。また、細くても長い活動になります。次に活動されるか方に情報を提供ください！

② ボランティア・救援物資 求む! No.

1. 障害児・者の介助 (レクリエーション)
2. 炊き出し
3. 救援物資 仕分け・配布
4. 専門職 (資格:)
5. 救援物資 求む
6. 義援金 求む
7. その他のボランティア

活動内容・詳細

問い合わせ・連絡先

TEL:
FAX:

阪神大震災支援センター

受付カード

NO. _____
月 _____ 日 _____

氏名 (ふりがな)		性別	男 女
生年月日	年 月 日生 才	血液型	
住 所			
TEL・FAX			
活動希望 日時・曜日		〈所属団体〉	
資格・特技		〈職 業〉	
どのような活動が可能ですか？ (可能なものに ○印をつけて 下さい。)	たとえば * 障害児・者の介助 * 障害児・者のレクリエーション (紙芝居等) * 炊き出し (前日準備・当日) * 救援物資の仕分け、配布 * 義援金 * その他 (あなたの出来ることを記入して下さい)		
保険について	ボランティア保険加入日	月	日
	震災保険加入日	月	日


阪 神 大 震 災 支 援 セ ン タ ー

3月

あなたの活動(ボランティア)希望日時
を教えてください！ *O印が←→で。

SUN 日	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

○日帰りの活動の場合 朝 8:30頃～夕方 6:00頃(京都)までで可
(京都発)

○泊が可能の方は、 この印で書き入れて下さい。

○特に希望されるボランティア活動がなければ〇で囲んで下さい。


- 1. 芦屋南高校での物販の仕分け
- 2. 住吉中での入浴サービス(宿泊可能な方)
- 3. 宇治社場の炊き出しのお手伝い



又、新しいニュースがありましたら情報ボードに更新しますので、よろしく!!

氏名 <small>フリガナ</small>		連絡先 連絡可能 時間帯	()	○は下い、 午・午・夜
御住所	〒			

4月

SUN 日	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

なるべく早く、郵送か御持参下さい。

よろしくお願ひ致します。

〒611

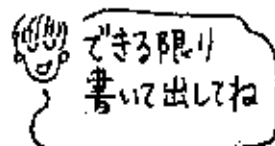
京都府宇治市宇治琵琶45

宇治市社会福祉協議会内

阪神大震災支援センター

☎ : 0774-24-4445

活動記録カード



記入日 年 月 日

氏名			
住所	〒		
行先	発着地	:	
	現場着	:	
活動日	年	月	日 ()
	時	分	～ 時 分
活動内容			
感想	なんでも自由にどうぞ		
	引継		
交通事情を詳しく書いてください。			

阪神大震災支援センター



宇治市社会福祉協議会

宇治ボランティア活動センター

阪神大震災支援センター

☎ 0774-24-4445

FAX 0774-22-5654



阪神大震災支援センター 2/10より 活動開始!

復興に取り組む、被災地の皆さんを応援したいとボランティアの参加を得て取り組みを始めました。まず義援金の協力依頼をかわきりに、ボランティアの説明会を2月10日午前と夜2回行い、150名の参加がありました。現在、新聞報道や対策本部からのボランティア募集の再調査と広報、活動に参加したい人の相談と調整活動を行っています。活動に参加した方から、アイデアや新たな情報、感想が届けられています。

一人一人の責任ある活動だからこそ、広がり、創造性がある活動になっています。このような活動を継続し、サポートでき、往來の豊かな柔軟性のある支援センターをめざして活動をすすめていきます。皆様のご助言、ご協力をよろしくお願い致します。



阪神大震災支援演奏会



演奏者… 池田 千鶴子さん

日時 1995年 3月 16日 開演午後 7時
終演午後 8時 30分
(会場 6時 40分)

会場 宇治市生涯学習センター
参加料 1000円(チケットをお求め下さい)

-活動報告会-ほっとタイム-

3月16日(木)

- 午後9時15分～10時
(ハープの夕べ演奏会終了後)
- 宇治市総合福祉会館3F

活動に参加された方から体験談をきき皆で交流できる会にしたいと思います。一人でも多くの方の活動体験をきかせてください。今後の活動の糧にしたいと思います。また、震災の活動に興味のある方も気軽に参加ください。

お待ちしております!



阪神淡路大震災の被災者支援に行政として参加して

京都府宇治地方振興局府民福祉課 課長 瀬戸野 義雄

2月24日から27日まで灘区役所のり災証明業務の応援に行ってきました。行政の対応を当初から指摘されていましたが、臨機に行動する事の難しさを身を持って感じました。

相談コーナーと称する「り災証明」の苦情うけたまわり所に2日間詰め、2日間は区役所で郵送分のり災証明の処理にあたりました。

そのなかで、いかに申出者の気持ちを掴む事が大切かを、日頃の福祉の業務以上に感じました。申出の内容を聞くなかで相手の気持ちを受け止め、事務の処理に終わるだけでなく安心を与え、そのなかで信頼を繋ぎとめることか。頑張ってみました。

こうした震災の業務に関わるなかで感じた事は、ボランティア精神の大切さでした。みずから進んで業務を担当しているという姿勢が、相手の激励になり、ゴクロー様と言う言葉を相手から頂くことができました。

今後とも宇治市社会福祉協議会の支援センターに結集しておられるボランティアの皆様には敬意を表するとともに、今後のご活躍を期待しています。

~~★ BSSS DASHIKU KURO ★ BSSS DASHIKU KURO ★ BSSS DASHIKU KURO~~

阪神大震災支援センターの活動に期待する

阪神大震災宇治市救援対策本部 本部長 浦田 和男

宇治市社会福祉協議会・阪神大震災支援センターのご活躍に心から敬意を表します。今回の大震災に対し宇治市として現地自治体と連絡をとり救援支援の取組みを進めているところですが、今後、現地・被災者支援については長期的な取組みが必要であり、その対策が要求されております。同時に本市の防災対策についても誤りなきよう強化・見直しを計ろうとしているところです。

この大震災の救援支援活動については、宇治市におきましても、かつてない規模で義援金や義援物資が寄せられ、数多くの団体や市民がボランティアとして現地の救援支援に駆け付けられている姿を見る時、行政としての責任の大きさを感じている次第であります。

このような中で宇治市社会福祉協議会・宇治ボランティア活動センターが阪神大震災支援センターを設置され被災現地と連絡を取りあう中で震災支援にかかわるボランティア活動の調整を進め、炊き出しをはじめ様々な救援支援活動を推めておられることは非常に心強さを感じますと共に被災市民の立場に立った市民相互間の繋がり、連帯がさらに大きくなるよう期待し、今後の活動のより一層の前進をお祈りします。



住吉中学校での活動に参加した

1泊2日参加の小南進さん、杉本一久さん、山口昌保さん、2泊3日2回参加の山北勝則さん

ボランティア募集中

♪ 3月18日 華盛にて 11-700の
演奏会が行われます。
その時 宇治のメンバーで
ケーキと紅茶・お茶席のサービスも
したいと思っております。
当日 どの人がお手伝いも
お願いたします。

○ 3月17日 AM10:30~PM3:00位
18日に神戸市庁Cスクエアで宇治市
総合福祉会館で作り手。
お手伝いお願いたします!!

🏠 須磨マリスト学院に避難
士がいるお母さんたちを訪問
します。
3月6、7、13、14日×1回
1回お出かけに行きたいと思っております。

📦 物資を仕分けボランティア
2.0① 芦屋南高校
宇治の支援センターから持ち来て
行きます。
AM8:30 京都駅集合
現地まで PM4:30頃まで作業
おと宇治から 数名の方がボランティア
に参加してくださいませ。

2.0② 神戸市民福祉交流センター
土日以外の日曜日は活動してほしいと
希望しています。
AM9:30 阪神伊田駅集合
現地まで PM4:00頃まで
作業

SSS 神戸市立佳吉中学校で
城陽市の市民の会の人たちが
戦場を開設中!

2泊3日で入浴施設の
給湯サービス・水の確保
水の通い方などはボランティア
可能な人。いませんか?

🚗 神戸学生青年センターで
救急点は福祉障害児・若
支援の会が 障害者を
対象に入浴サービスを提供
します。その送迎車の運転
ボランティアを募集しています。

おのて下の方 歓迎できるか
日帰りも OK!

- ・現地作業は AM10:00 ~ PM5:00
- ・車種は 750P と 110E-ス


+ 神戸市中央区にある
神戸聖ミカエルの教会内に
避難している人たちの援助

1週間 ~ 1ヶ月の長期ボラン
ティアも可能な人。いませんか?

在日外国人、高齢者、障害者
の方から 募集したいと思っています
ので 関心のある人をお願いたします。

以上のボランティアについての
お問い合わせは 支援センターまで……

ボランティア 活動報告



2月17日（金）芦屋南高等学校

《活動内容》救援物資の搬入、仕分け

《感想》倒れたり、折れまがった家屋を見て、今更ながら地震の恐ろしさを感じた。高校では若い方がテキパキと働いておられるのを見て頼もしく嬉しく思った。長野県や愛知県から手伝いにきている方ともお話しした。仕分けされた物資が、必要なときに必要な方々へ届けられるよう、祈る思いだった。一日も早く元どおりの生活ができる事を願います。

（S・S）



2月26日（日）芦屋南高等学校

合同慰霊祭が行われた日

《活動内容》合同慰霊祭が午後1時から行われるために、式場に通じる通路の整備、そして参列者の式場への案内。
《感想》午前中は土を運んだり体を動かしたりして、寒さも感じず仕事をしたと言う感じで、皆で『よかったね』と話ししていました。

私たちもお参りさせて頂き、4時ごろ帰途につきました。

いろいろなこと皆と一緒にさせてください。

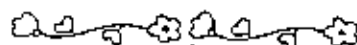
（E・N）

2月23日（木）芦屋市春日町集会所

炊き出し

《活動内容》炊き出しの手伝い

《感想》小学生の子供達が手伝ってくれました。みんな元気なので良かったデス。『やはりテレビの世界とは違うな』と実感しました。また手伝いに行けたら良いなと思います。（N・S）



2月28日（火）新緑園マリスト園

おもちゃ、学用品を届ける


《活動内容》兵庫県子ども会連合会

「おもちゃステーション」の取組で避難所におもちゃ、学用品を届ける。

《感想》想像以上の悲慘さで言葉もありません。子供達が明るくしてくれていたので、ホッとしました。おもちゃ類は配るだけでなく一緒に遊んであげる方が喜んでもらえると思います。

職場の仲間と少し本とおもちゃを持って、現地に行く予定です。（T・I）

みなさんの
活動報告カード
お待ちしております！



●活動希望者数（登録者） 125人

●活動要請件数 44件

●相談件数 35件

（それぞれの対応件数については整理中）

●活動者数 137名

- ・芦屋南高校物資仕分け 58名
- ・住吉中学校避難所 16名
- ・神戸市市民交流センター物資仕分け 4名
- ・話し相手 4名
- ・芦屋市春日集会場炊き出し(前・組) 44名
- ・神戸市須磨区おもちゃ配達 7名
- ・宇治市へ避難者引越しの手伝い 4名

●芦屋市避難所炊き出し活動団体 9団体

- ・宇治ボランティア活動センター（2/23, 3/18, 3/23）
- ・西小倉地区社会福祉協議会（2/25）
- ・三室戸学区福祉委員会（3/3）
- ・伊勢田学区福祉委員会（3/12）
- ・横島学区福祉委員会（3/13）
- ・大久保学区福祉委員会（3/15）
- ・笠取学区福祉委員会（3/25）

◆ありがとうございました◆

★支援センター活動を円滑にすすめていくために、現地に調査へでかけました。その際地理感覚もない私たちに被災者である速見さん、寺本さんにご協力をしていただきました。

★炊き出しのために、(株)西山製麺様よりうどん用容器とわりばし1000組、寺女商店様よりプロパンの寄贈がありました。

◇炊き出し用の物資寄贈のご協力をよろしくお願い致します。◇

<事務局> ☎611 宇治市宇治屋敷45 宇治市総合福祉会館内 3F

編集後記

「あせらず つなげよう

人・もの・心

今 できることから・・・」

と、2月10日から活動を開始した阪神大震災センターも1カ月。

被災地で、宇治で多くの人たちの支援の輪が広がり、ボランティア活動を通して被災地ばかりでなく、宇治でもなにかが動き出していると感じる1カ月でした。後から後から押し寄せてくる、持て余すほどの難題を抱えて、必死で頑張っている被災地からの声に、常に耳を傾けながらあらためて「できることから・・・!」と、2カ月目のスタートです。

現在もボランティア募集を行っております。

センターが「出会いと共感の中からもなにかが生まれていく」そんな場でありたいとスタッフ一同願っています。皆さん!! 待ってま～～す!



こんな活動が
うまれました!



↑ 今後も情報板
として生かしま
す。



↑
「してあげな、してもら
う」を越えた活動が
生まれました。



↑
「フリーフリークラブ」
が産み声を
あげました。



↑
宇治ボランティア活動
センターは、新た
な組織をスタート
としました。

～ 編集後記 ～

◆大震災より6ヶ月の月日が流れました。現在も復興にむけて、多くの課題が山積みされる中、新たな「まちづくり」が模索され進められています。私たちの多くの活動から得たものを大切にしていきたいと思っています。私たちのできる活動を今後も続けていきたいと考えています。

◆人と人との繋りの素晴らしさを、当たり前のこととして新らためて感じた活動でした。この繋りをもっともっと大きな輪にしていきたいと思えます。

◆成文社様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

◆連絡先

〒611 宇治市宇治琵琶45 宇治市総合福祉会館
宇治市社会福祉協議会内 宇治ボランティア活動センター
☎0774-22-5650 FAX0774-22-5654

阪神・淡路大震災活動記録

「つなぐ」

1995年7月21日

発行：阪神大震災支援センター

題字：宇治市社会福祉協議会

会長 笠嶋 教瑞

印刷：成文社